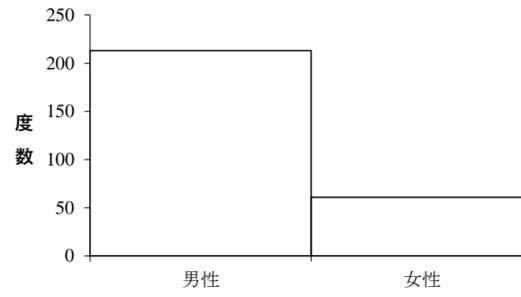


回答者属性-1

度数分布表

性別(c-1)

出現値	度数	確率(%)	有効度数	有効確率	累積確率
男性	213	74.48	213	77.74	77.74
女性	61	21.33	61	22.26	100.00
欠損値	12	4.20			
合計	286	100	274	100	

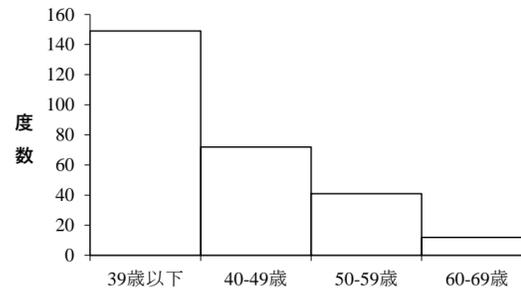


一様性の検定
 χ^2 乗値 84.321
 自由度 1
 p値 .000

平均値 1.223 歪度 1.341 正規性 0.481
 標準偏差 0.417 尖度 -0.204 補正p値 .000

年齢(c-2)

出現値	度数	確率(%)	有効度数	有効確率	累積確率
39歳以下	149	52.10	149	54.38	54.38
40-49歳	72	25.17	72	26.28	80.66
50-59歳	41	14.34	41	14.96	95.62
60-69歳	12	4.20	12	4.38	100.00
欠損値	12	4.20			
合計	286	100	274	100	

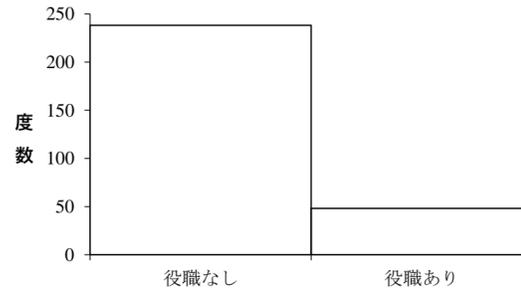


一様性の検定
 χ^2 乗値 152.423
 自由度 3
 p値 .000

平均値 1.693 歪度 1.029 正規性 0.328
 標準偏差 0.882 尖度 0.028 補正p値 .000

役職ダミー(c-4-2-1)

出現値	度数	確率(%)	有効度数	有効確率	累積確率
役職なし	238	83.22	238	83.22	83.22
役職あり	48	16.78	48	16.78	100.00
欠損値	0	0.00			
合計	286	100	286	100	

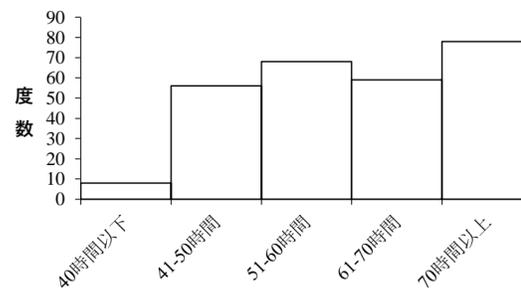


一様性の検定
 χ^2 乗値 126.224
 自由度 1
 p値 .000

平均値 0.168 歪度 1.787 正規性 0.505
 標準偏差 0.374 尖度 1.202 補正p値 .000

勤務時間(c-5)

出現値	度数	確率(%)	有効度数	有効確率	累積確率
40時間以下	8	2.80	8	2.97	2.97
41-50時間	56	19.58	56	20.82	23.79
51-60時間	68	23.78	68	25.28	49.07
61-70時間	59	20.63	59	21.93	71.00
70時間以上	78	27.27	78	29.00	100.00
欠損値	17	5.94			
合計	286	100	269	100	

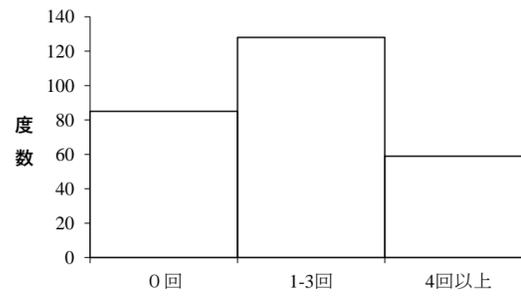


一様性の検定
 χ^2 乗値 54.216
 自由度 4
 p値 .000

平均値 3.532 歪度 -0.194 正規性 0.180
 標準偏差 1.195 尖度 -1.151 補正p値 .000

当直回数(c-6)

出現値	度数	確率(%)	有効度数	有効確率	累積確率
0回	85	29.72	85	31.25	31.25
1-3回	128	44.76	128	47.06	78.31
4回以上	59	20.63	59	21.69	100.00
欠損値	14	4.90			
合計	286	100	272	100	



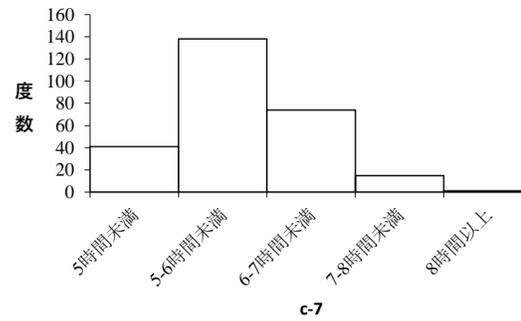
一様性の検定
 χ^2 乗値 26.787
 自由度 2
 p値 .000

平均値 1.904 歪度 0.146 正規性 0.240
 標準偏差 0.723 尖度 -1.071 補正p値 .000

回答者属性-2

睡眠時間(c-7)

出現値	度数	確率(%)	有効度数	有効確率	累積確率
5時間未満	41	14.34	41	15.24	15.24
5-6時間未満	138	48.25	138	51.30	66.54
6-7時間未満	74	25.87	74	27.51	94.05
7-8時間未満	15	5.24	15	5.58	99.63
8時間以上	1	0.35	1	0.37	100.00
欠損値	17	5.94			
合計	286	100	269	100	

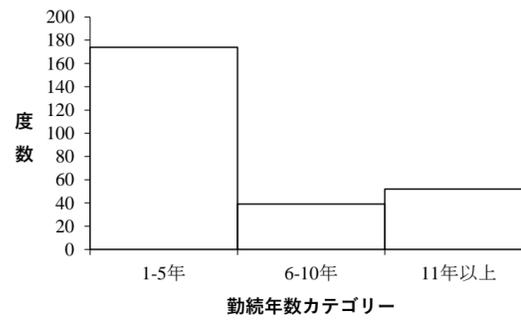


一様性の検定
 χ^2 乗値 222.208
 自由度 4
 p値 .000

平均値 2.245 歪度 0.398 正規性 0.287
 標準偏差 0.791 尖度 0.109 補正p値 .000

勤続年数カテゴリー(勤続年数カテゴリー)

出現値	度数	確率(%)	有効度数	有効確率	累積確率
1-5年	174	60.84	174	65.66	65.66
6-10年	39	13.64	39	14.72	80.38
11年以上	52	18.18	52	19.62	100.00
欠損値	21	7.34			
合計	286	100	265	100	

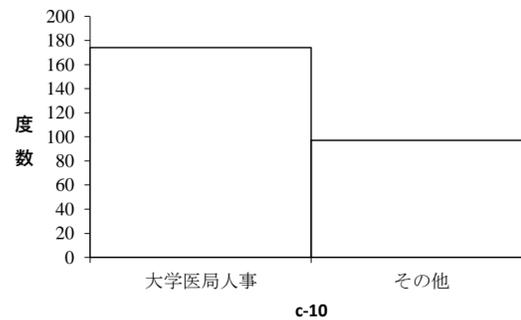


一様性の検定
 χ^2 乗値 125.577
 自由度 2
 p値 .000

平均値 1.540 歪度 1.024 正規性 0.406
 標準偏差 0.802 尖度 -0.665 補正p値 .000

人事決定(c-10)

出現値	度数	確率(%)	有効度数	有効確率	累積確率
大学医局人事	174	60.84	174	64.21	64.21
その他	97	33.92	97	35.79	100.00
欠損値	15	5.24			
合計	286	100	271	100	



一様性の検定
 χ^2 乗値 21.878
 自由度 1
 p値 .000

平均値 1.358 歪度 0.596 正規性 0.414
 標準偏差 0.480 尖度 -1.657 補正p値 .000

職務満足項目要約統計量

サンプルサイズ

286

※分散は不偏分散, 標準偏差は不偏分散の平方根が出力されています。

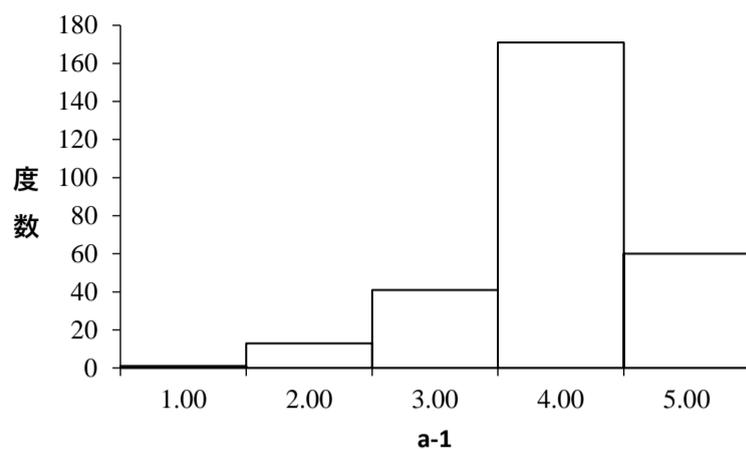
変数名	有効N	平均値	中央値	標準偏差	分散	最小値	最大値
今の臨床の仕事は個人的にやりがいがあると感じている。	286	3.965	4.000	0.753	0.567	1.000	5.000
自分にかかってくる患者や病院からの呼び出しは過度ではない。	286	3.472	4.000	0.950	0.903	1.000	5.000
事務仕事は私にとって負担になっている。	285	3.796	4.000	0.979	0.958	1.000	5.000
同僚の医師たちは私の職業意識を良い意味で刺激してくれる。	284	3.778	4.000	0.791	0.626	1.000	5.000
患者からの要望には閉口させられる。	286	2.881	3.000	0.906	0.821	1.000	5.000
おおむね私は仕事を楽しんでいる。	286	3.619	4.000	0.865	0.749	1.000	5.000
私と私の家族は自分が働いている地域と強い絆で結ばれている。	286	2.385	2.000	1.036	1.073	1.000	5.000
やらなければいけないペーパーワークが多すぎる。	286	3.647	4.000	0.972	0.945	2.000	5.000
結局のところ、医師としての自分のキャリアには満足している。	286	3.430	4.000	0.859	0.737	1.000	5.000
同僚の医師たちは診療面での私の考えを評価してくれている。	285	3.632	4.000	0.723	0.522	1.000	5.000
多くの患者が基本的には必要のない治療を求めてくる。	286	2.748	3.000	0.874	0.764	1.000	5.000
私は自分の患者と強い絆で結ばれている。	286	3.077	3.000	0.750	0.562	1.000	5.000
おおむね私は現在の仕事の状況に満足している。	286	3.378	4.000	0.924	0.853	1.000	5.000
時間の制約のために一人の患者に十分時間をかけることが出来ない。	286	3.517	4.000	0.905	0.819	1.000	5.000
同僚の医師たちは私にとって大切な支えとなっている。	283	3.919	4.000	0.751	0.564	1.000	5.000
自分がしてきたトレーニングや経験からすれば十分な収入は得ていない。	284	3.264	3.000	0.972	0.944	1.000	5.000
コメディカルスタッフの職務能力は満足のいくものである。	284	3.282	3.000	0.946	0.896	1.000	5.000
私は自分が診療している地域に根をおろしていると感じる。	284	2.930	3.000	1.010	1.020	1.000	5.000
私の医師としてのキャリアはおおむね期待したとおりだった。	283	3.208	3.000	0.814	0.662	1.000	5.000
対応が難しいと感じる患者が以前より増えた。	284	3.380	3.000	0.871	0.759	1.000	5.000
仕事のためプライベートにしわ寄せがきているのが問題だ。	284	3.599	4.000	0.959	0.920	1.000	5.000
私の収入全体の額は、仕事量と釣り合っている。	284	2.722	3.000	1.004	1.007	1.000	5.000
現在の仕事の状況は私の欲求不満の大きな原因になっている。	284	3.018	3.000	0.907	0.823	1.000	5.000
私は同僚の医師達とうまくやっている。	284	3.775	4.000	0.677	0.458	1.000	5.000
コメディカルスタッフは医師に対してあまり協力的ではない。	284	2.384	2.000	0.864	0.746	1.000	5.000
他科の医師に比べて十分な収入を得ていない。	283	2.982	3.000	0.947	0.897	1.000	5.000
現在の職場の仕事は自分の期待していたものとは異なる。	284	2.732	3.000	0.885	0.783	1.000	5.000
コメディカルスタッフは私にとって大切な支えとなっている。	284	3.549	4.000	0.894	0.800	1.000	5.000
労働時間の短縮である。	283	2.986	3.000	0.748	0.560	1.000	4.000
報酬の増加である。	284	2.965	3.000	0.844	0.713	1.000	4.000
家族と過ごす時間の確保である。	283	3.205	3.000	0.642	0.412	1.000	4.000
宿日直業務(時間外業務)を減少させることである。	283	2.975	3.000	0.731	0.535	1.000	4.000
複数主治医の導入である。	283	2.746	3.000	0.762	0.580	1.000	4.000
患者との良好な関係を構築できるシステム形成である。	281	2.555	3.000	0.711	0.505	1.000	4.000
自己研鑽に活用できる時間の確保である。	283	2.954	3.000	0.614	0.377	1.000	4.000
女性医師の労働環境の整備である。	282	2.897	3.000	0.675	0.456	1.000	4.000
医師事務作業補助者の活用による医師の生産性の向上である。	281	3.278	3.000	0.639	0.408	1.000	4.000
電子カルテやIoTなどの情報技術(ICT)の活用である。	283	2.982	3.000	0.671	0.450	1.000	4.000
書類作成業務の縮小である。	284	3.275	3.000	0.647	0.419	1.000	4.000
学会や研究会への参加を奨励、サポートすることである。	284	2.898	3.000	0.693	0.481	1.000	4.000
成果主義に基づく経済的インセンティブの付与である。	282	2.801	3.000	0.766	0.587	1.000	4.000
最新の医療機器の導入や治験の獲得など医療レベルの向上である。	283	2.615	3.000	0.717	0.514	1.000	4.000
職務内容を自律的に決定できることである。	283	2.700	3.000	0.683	0.466	1.000	4.000
労働時間をフレックスタイム制やシフト制にすることである。	284	2.789	3.000	0.722	0.521	1.000	4.000
専門医などの資格取得のサポートシステムである。	284	2.775	3.000	0.692	0.479	1.000	4.000
医師のブランド化を戦略的にサポートすることである。	283	2.382	2.000	0.721	0.521	1.000	4.000
医療の不確実性を患者に認識してもらう啓発活動である。	284	2.725	3.000	0.776	0.603	1.000	4.000
同僚と良好な関係を構築できる環境の提供である。	283	2.650	3.000	0.626	0.391	1.000	4.000
留学支援制度やキャリアサポートシステムを構築することである。	284	2.556	3.000	0.699	0.488	1.000	4.000
勤務医師の健康状態(肉体、精神)に配慮することである。	284	3.218	3.000	0.596	0.355	1.000	4.000
他職種へのタスクシフティング(業務移管)である。	283	3.064	3.000	0.644	0.414	1.000	4.000
かかりつけ医や他医療機関など地域における連携の強化である。	284	2.901	3.000	0.633	0.400	1.000	4.000
産業医を含めた職務に関する相談窓口の活用である。	283	2.509	3.000	0.670	0.449	1.000	4.000

分析コード: _____ 0.33秒

職務満足項目ヒストグラム-1

今の臨床の仕事は個人的にやりがいがあると感じている。(a-1)

出現数 5

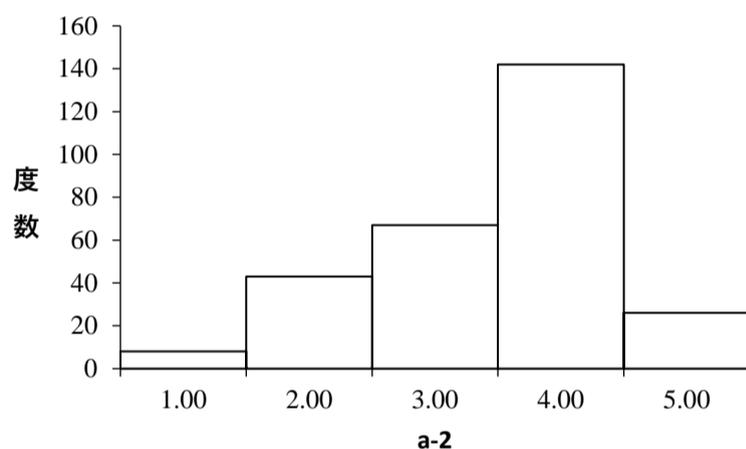


区間	級代表値	度数
1	1.00	1
2	2.00	13
3	3.00	41
4	4.00	171
5	5.00	60
合計		286

平均値 3.965 歪度 -0.786 正規性 0.326
 標準偏差 0.753 尖度 1.151 補正p値 .000

自分にかかってくる患者や病院からの呼び出しは過度ではない。(a-2)

出現数 5

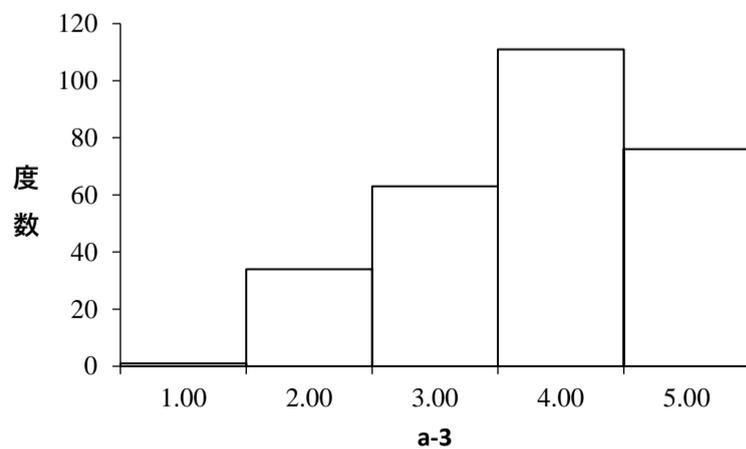


区間	級代表値	度数
1	1.00	8
2	2.00	43
3	3.00	67
4	4.00	142
5	5.00	26
合計		286

平均値 3.472 歪度 -0.624 正規性 0.298
 標準偏差 0.950 尖度 -0.144 補正p値 .000

事務仕事は私にとって負担になっている。(a-3)

出現数 5



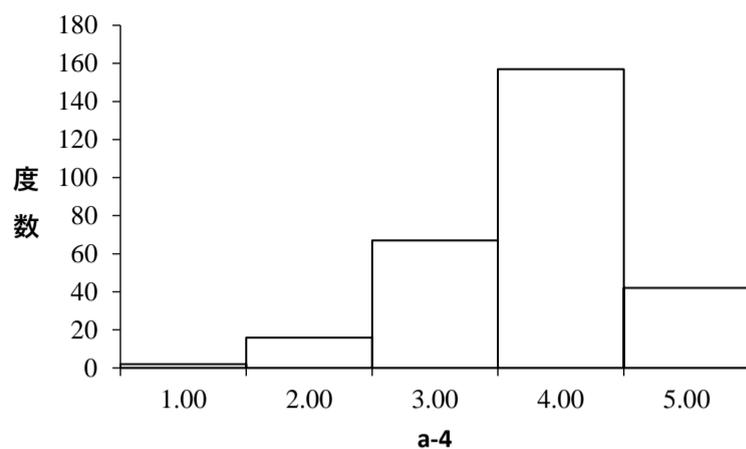
区間	級代表値	度数
1	1.00	1
2	2.00	34
3	3.00	63
4	4.00	111
5	5.00	76
合計		285

平均値 3.796 歪度 -0.444 正規性 0.238
 標準偏差 0.979 尖度 -0.682 補正p値 .000

職務満足項目ヒストグラム-2

同僚の医師たちは私の職業意識を良い意味で刺激してくれる。(a-4)

出現数 5

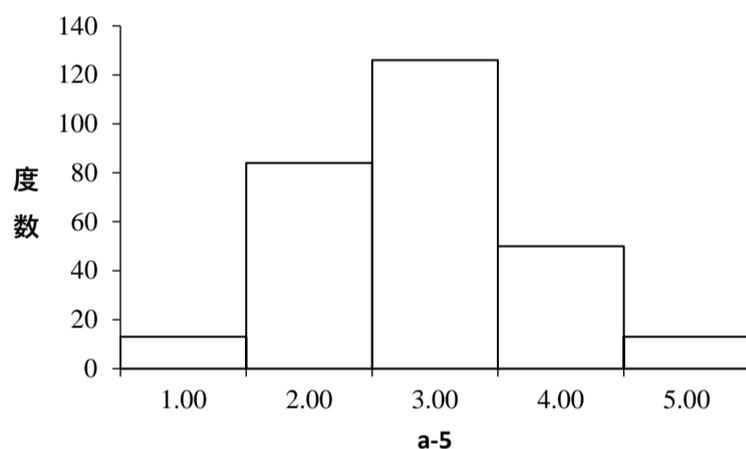


区間	級代表値	度数
1	1.00	2
2	2.00	16
3	3.00	67
4	4.00	157
5	5.00	42
合計		284

平均値 3.778 歪度 -0.619 正規性 0.311
 標準偏差 0.791 尖度 0.636 補正p値 .000

患者からの要望には閉口させられる。(a-5)

出現数 5

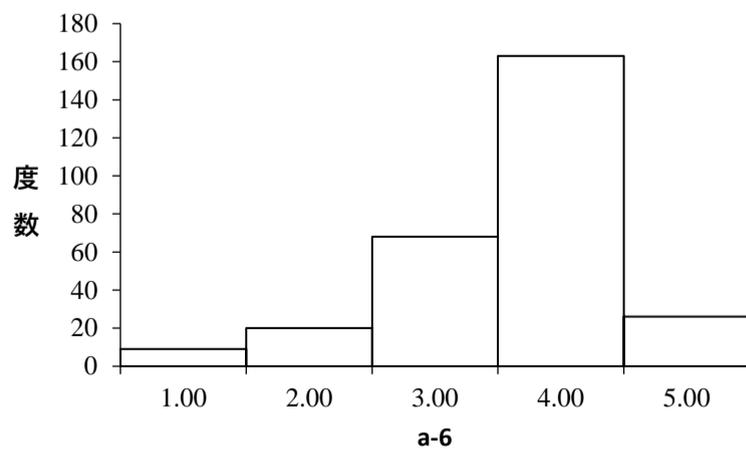


区間	級代表値	度数
1	1.00	13
2	2.00	84
3	3.00	126
4	4.00	50
5	5.00	13
合計		286

平均値 2.881 歪度 0.237 正規性 0.228
 標準偏差 0.906 尖度 -0.087 補正p値 .000

おおむね私は仕事を楽しんでいる。(a-6)

出現数 5

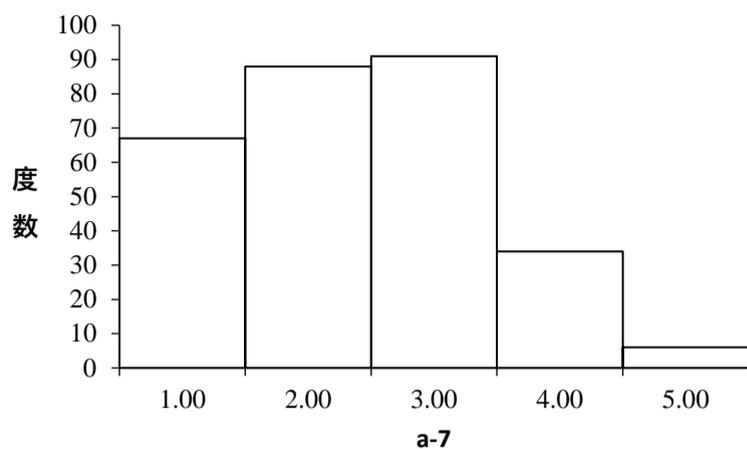


区間	級代表値	度数
1	1.00	9
2	2.00	20
3	3.00	68
4	4.00	163
5	5.00	26
合計		286

平均値 3.619 歪度 -1.009 正規性 0.331
 標準偏差 0.865 尖度 1.240 補正p値 .000

職務満足項目ヒストグラム-3

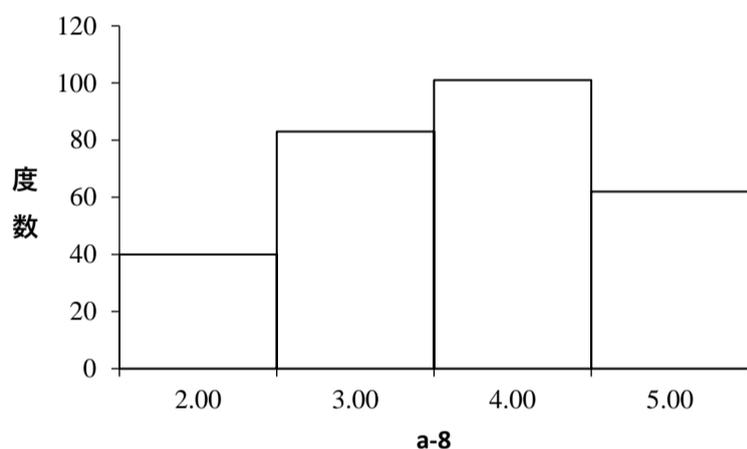
私と私の家族は自分が働いている地域と強い絆で結ばれている。(a-7) 出現数 5



区間	級代表値	度数
1	1.00	67
2	2.00	88
3	3.00	91
4	4.00	34
5	5.00	6
合計		286

平均値 2.385 歪度 0.283 正規性 0.187
 標準偏差 1.036 尖度 -0.623 補正p値 .000

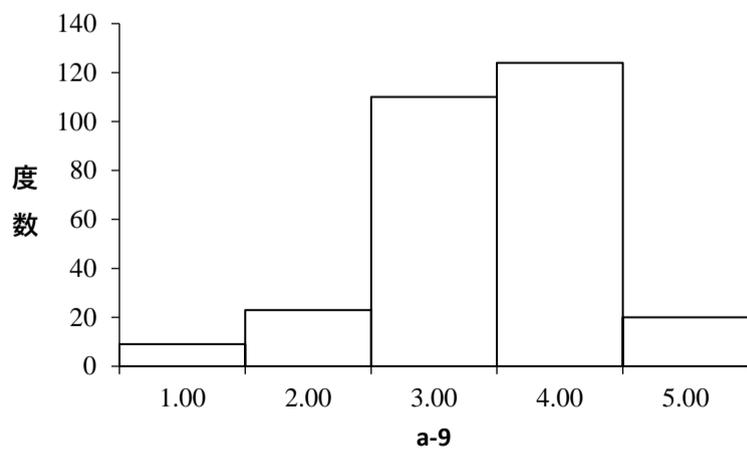
やらなければいけないペーパーワークが多すぎる。(a-8) 出現数 4



区間	級代表値	度数
2	2.00	40
3	3.00	83
4	4.00	101
5	5.00	62
合計		286

平均値 3.647 歪度 -0.166 正規性 0.212
 標準偏差 0.972 尖度 -0.953 補正p値 .000

結局のところ、医師としての自分のキャリアには満足している。(a-9) 出現数 5



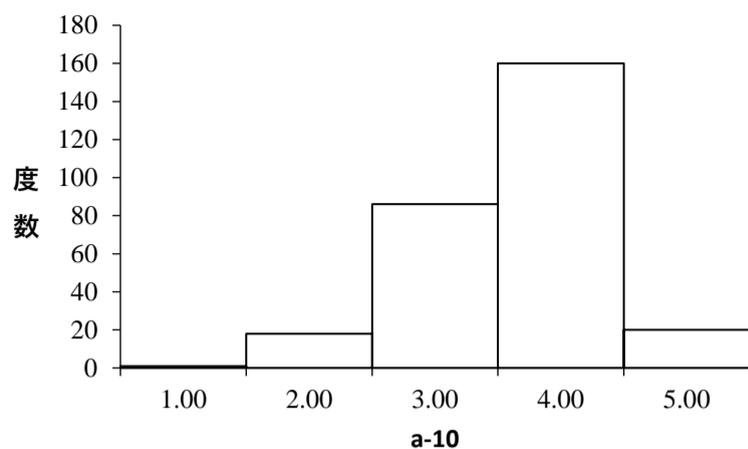
区間	級代表値	度数
1	1.00	9
2	2.00	23
3	3.00	110
4	4.00	124
5	5.00	20
合計		286

平均値 3.430 歪度 -0.585 正規性 0.250
 標準偏差 0.859 尖度 0.584 補正p値 .000

職務満足項目ヒストグラム-4

同僚の医師たちは診療面での私の考えを評価してくれている。(a-10)

出現数 5

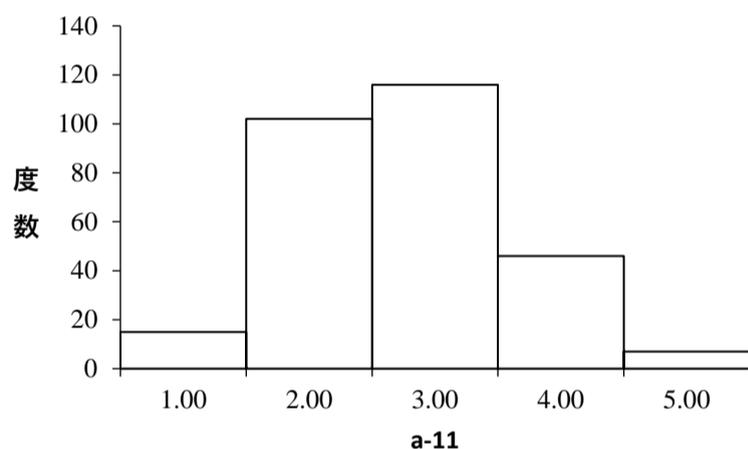


区間	級代表値	度数
1	1.00	1
2	2.00	18
3	3.00	86
4	4.00	160
5	5.00	20
合計		285

平均値 3.632 歪度 -0.553 正規性 0.326
 標準偏差 0.723 尖度 0.426 補正p値 .000

多くの患者が基本的には必要のない治療を求めてくる。(a-11)

出現数 5

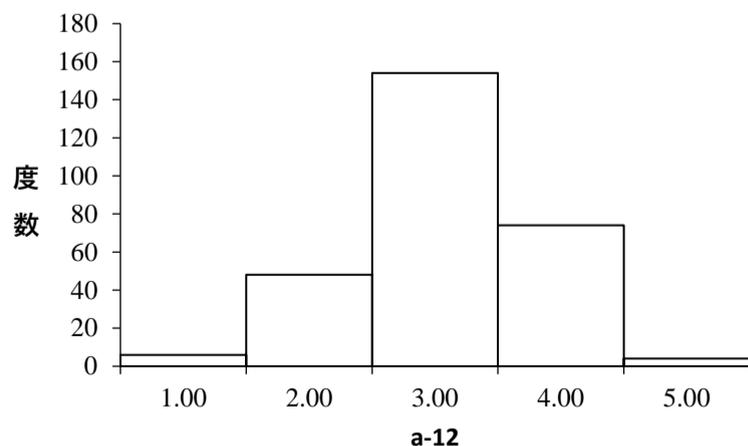


区間	級代表値	度数
1	1.00	15
2	2.00	102
3	3.00	116
4	4.00	46
5	5.00	7
合計		286

平均値 2.748 歪度 0.260 正規性 0.213
 標準偏差 0.874 尖度 -0.178 補正p値 .000

私は自分の患者と強い絆で結ばれている。(a-12)

出現数 5



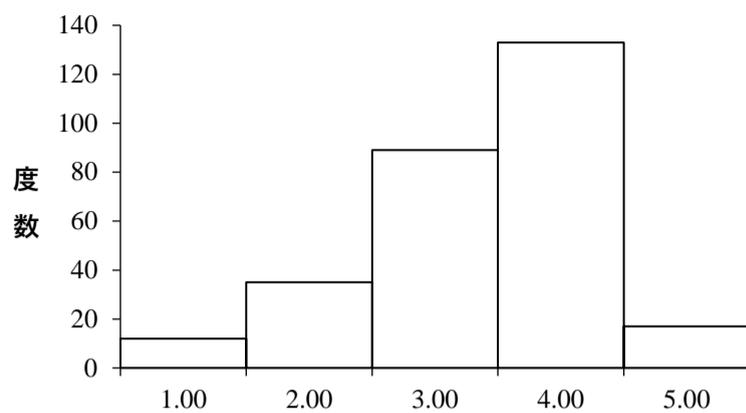
区間	級代表値	度数
1	1.00	6
2	2.00	48
3	3.00	154
4	4.00	74
5	5.00	4
合計		286

平均値 3.077 歪度 -0.227 正規性 0.270
 標準偏差 0.750 尖度 0.192 補正p値 .000

職務満足項目ヒストグラム-5

おおむね私は現在の仕事の状況に満足している。(a-13)

出現数 5



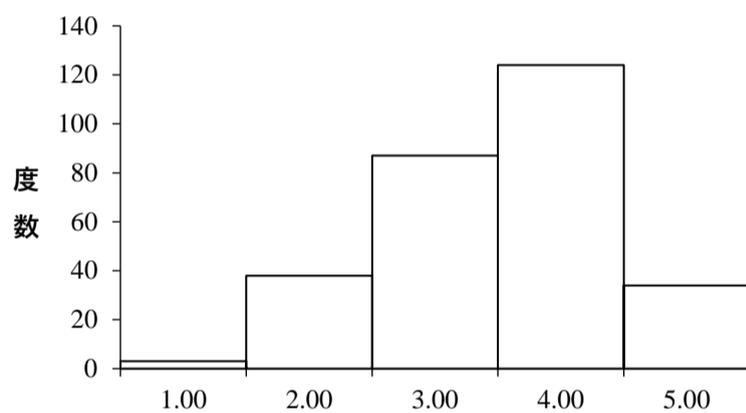
a-13

平均値 3.378 歪度 -0.685 正規性 0.274
 標準偏差 0.924 尖度 0.162 補正p値 .000

区間	級代表値	度数
1	1.00	12
2	2.00	35
3	3.00	89
4	4.00	133
5	5.00	17
合計		286

時間の制約のために一人の患者に十分時間をかけることが出来ない。(a-14)

出現数 5



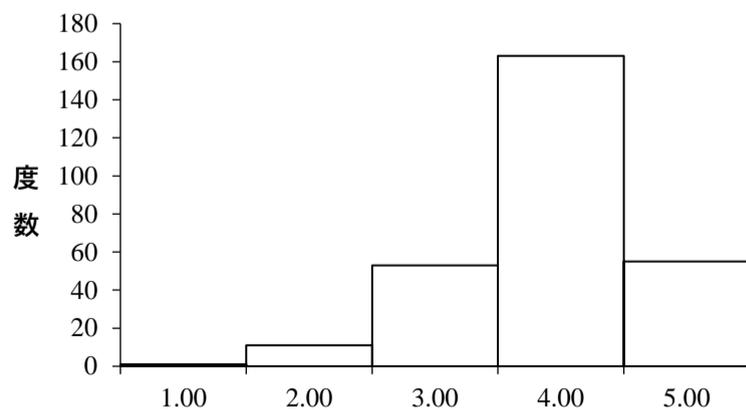
a-14

平均値 3.517 歪度 -0.324 正規性 0.255
 標準偏差 0.905 尖度 -0.365 補正p値 .000

区間	級代表値	度数
1	1.00	3
2	2.00	38
3	3.00	87
4	4.00	124
5	5.00	34
合計		286

同僚の医師たちは私にとって大切な支えとなっている。(a-15)

出現数 5



a-15

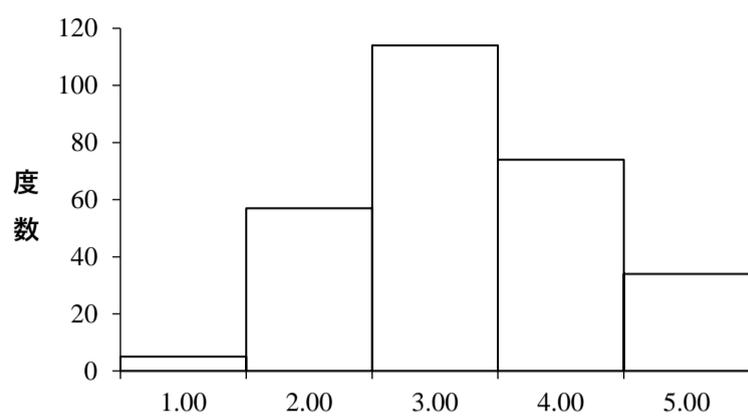
平均値 3.919 歪度 -0.624 正規性 0.313
 標準偏差 0.751 尖度 0.774 補正p値 .000

区間	級代表値	度数
1	1.00	1
2	2.00	11
3	3.00	53
4	4.00	163
5	5.00	55
合計		283

職務満足項目ヒストグラム-6

自分がしてきたトレーニングや経験からすれば十分な収入は得ていない。(a-16)

出現数 5

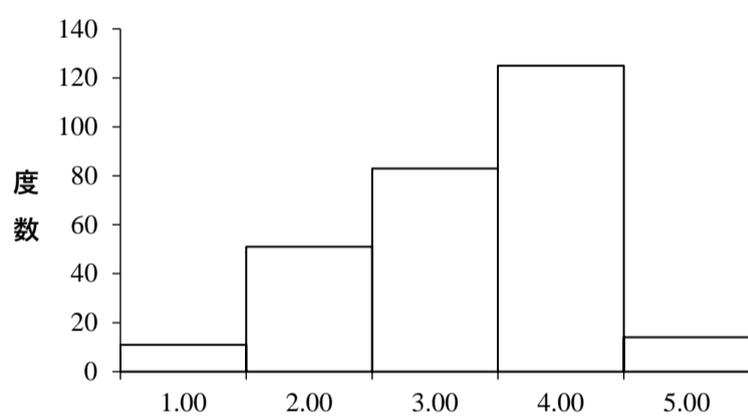


区間	級代表値	度数
1	1.00	5
2	2.00	57
3	3.00	114
4	4.00	74
5	5.00	34
合計		284

平均値 3.264 歪度 0.124 正規性 0.227
 標準偏差 0.972 尖度 -0.571 補正p値 .000

コメディカルスタッフの職務能力は満足のものである。(a-17)

出現数 5

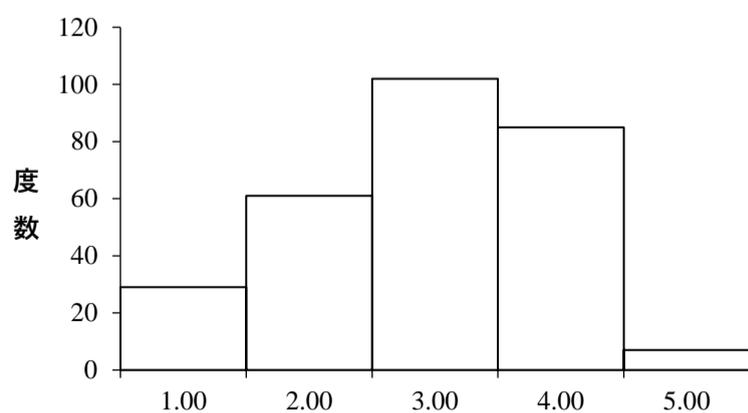


区間	級代表値	度数
1	1.00	11
2	2.00	51
3	3.00	83
4	4.00	125
5	5.00	14
合計		284

平均値 3.282 歪度 -0.514 正規性 0.266
 標準偏差 0.946 尖度 -0.370 補正p値 .000

私は自分が診療している地域に根をおろしていると感じる。(a-18)

出現数 5



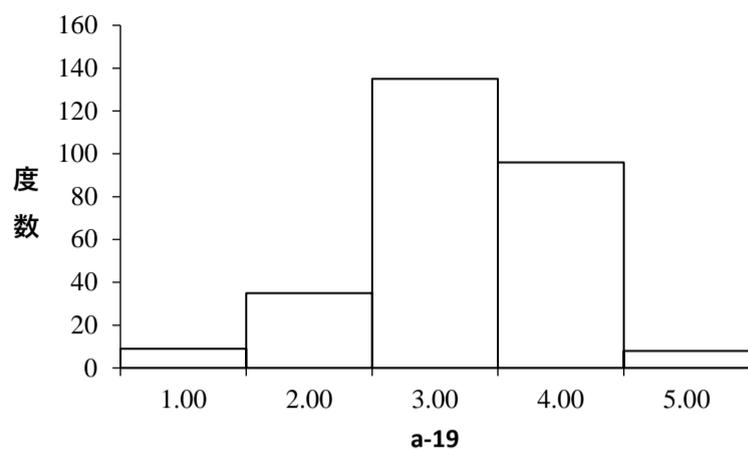
区間	級代表値	度数
1	1.00	29
2	2.00	61
3	3.00	102
4	4.00	85
5	5.00	7
合計		284

平均値 2.930 歪度 -0.314 正規性 0.211
 標準偏差 1.010 尖度 -0.645 補正p値 .000

職務満足項目ヒストグラム-7

私の医師としてのキャリアはおおむね期待したとおりだった。(a-19)

出現数 5

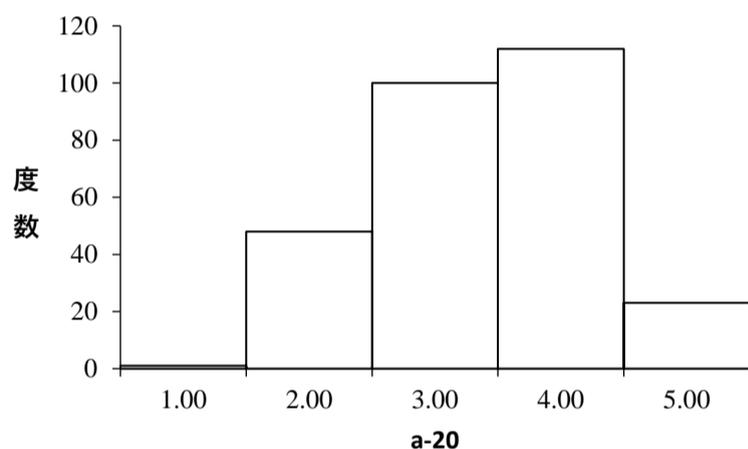


区間	級代表値	度数
1	1.00	9
2	2.00	35
3	3.00	135
4	4.00	96
5	5.00	8
合計		283

平均値 3.208 歪度 -0.440 正規性 0.243
 標準偏差 0.814 尖度 0.349 補正p値 .000

対応が難しいと感じる患者が以前より増えた。(a-20)

出現数 5

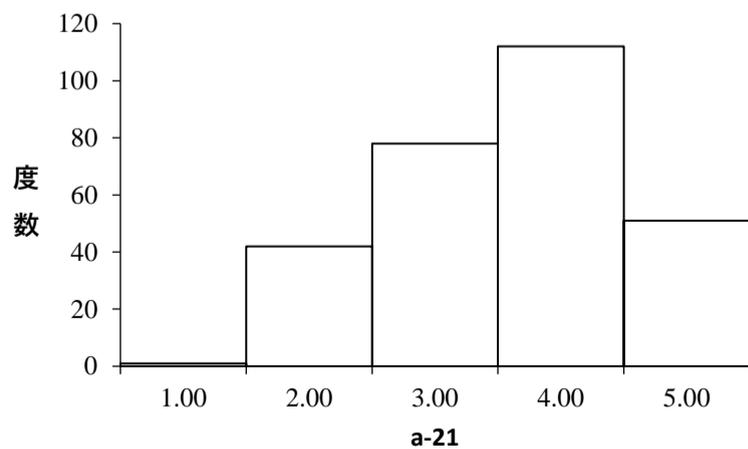


区間	級代表値	度数
1	1.00	1
2	2.00	48
3	3.00	100
4	4.00	112
5	5.00	23
合計		284

平均値 3.380 歪度 -0.112 正規性 0.237
 標準偏差 0.871 尖度 -0.634 補正p値 .000

仕事のためプライベートにしわ寄せがきているのが問題だ。(a-21)

出現数 5



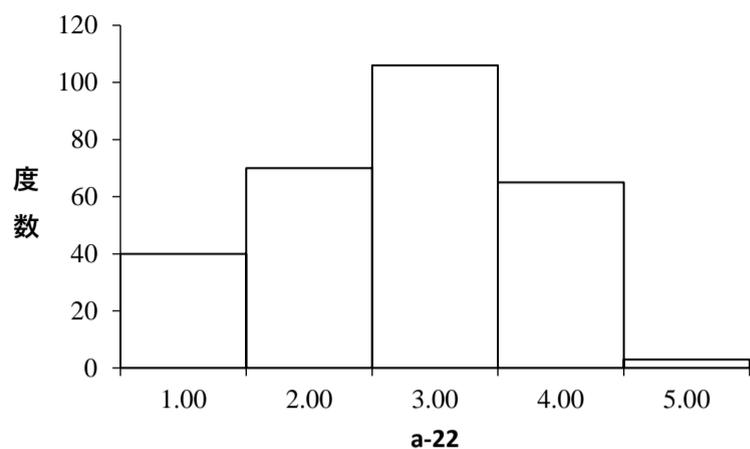
区間	級代表値	度数
1	1.00	1
2	2.00	42
3	3.00	78
4	4.00	112
5	5.00	51
合計		284

平均値 3.599 歪度 -0.235 正規性 0.236
 標準偏差 0.959 尖度 -0.772 補正p値 .000

職務満足項目ヒストグラム-8

私の収入全体の額は、仕事量と釣り合っている。(a-22)

出現数 5

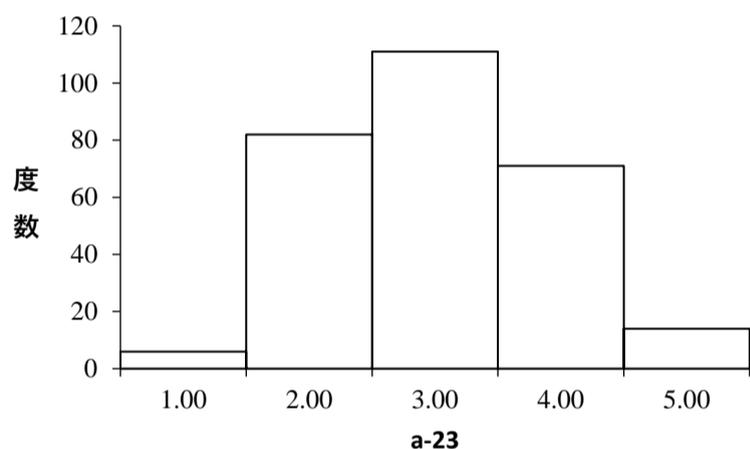


区間	級代表値	度数
1	1.00	40
2	2.00	70
3	3.00	106
4	4.00	65
5	5.00	3
合計		284

平均値 2.722 歪度 -0.201 正規性 0.222
 標準偏差 1.004 尖度 -0.806 補正p値 .000

現在の仕事の状況は私の欲求不満の大きな原因になっている。(a-23)

出現数 5

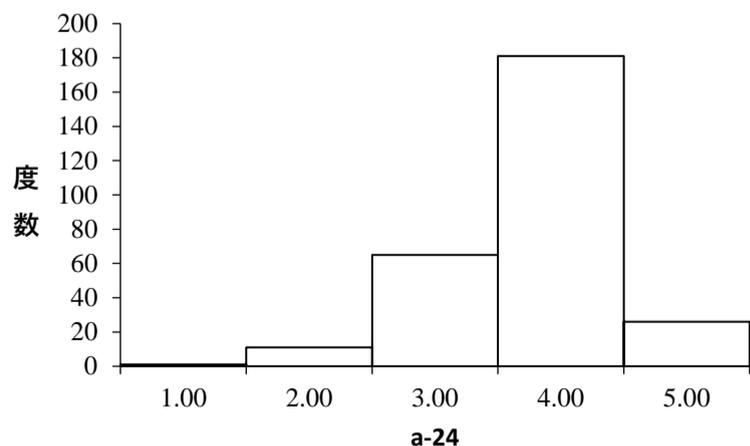


区間	級代表値	度数
1	1.00	6
2	2.00	82
3	3.00	111
4	4.00	71
5	5.00	14
合計		284

平均値 3.018 歪度 0.194 正規性 0.208
 標準偏差 0.907 尖度 -0.529 補正p値 .000

私は同僚の医師達とうまくやっている。(a-24)

出現数 5



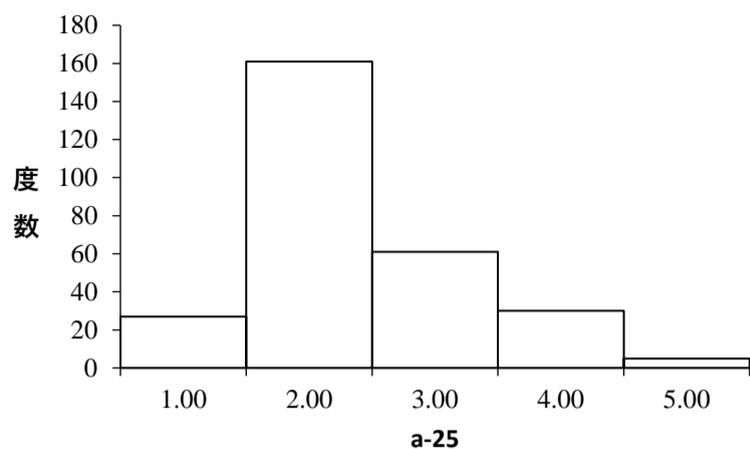
区間	級代表値	度数
1	1.00	1
2	2.00	11
3	3.00	65
4	4.00	181
5	5.00	26
合計		284

平均値 3.775 歪度 -0.725 正規性 0.359
 標準偏差 0.677 尖度 1.287 補正p値 .000

職務満足項目ヒストグラム-9

コメディカルスタッフは医師に対してあまり協力的ではない。(a-25)

出現数 5

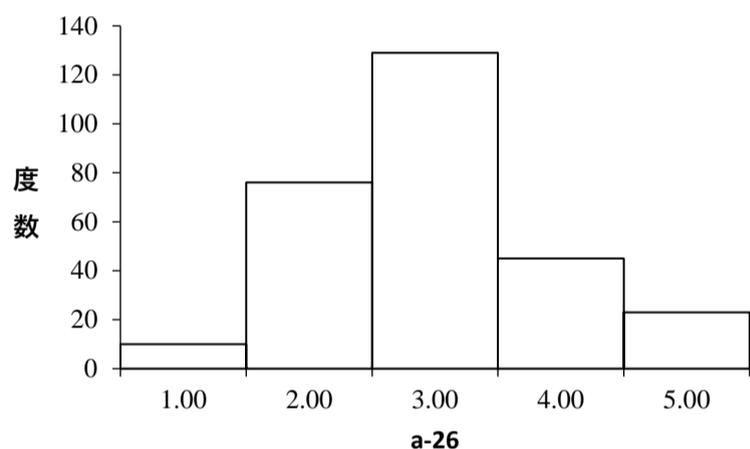


区間	級代表値	度数
1	1.00	27
2	2.00	161
3	3.00	61
4	4.00	30
5	5.00	5
合計		284

平均値 2.384 歪度 0.827 正規性 0.334
 標準偏差 0.864 尖度 0.535 補正p値 .000

他科の医師に比べて十分な収入を得ていない。(a-26)

出現数 5

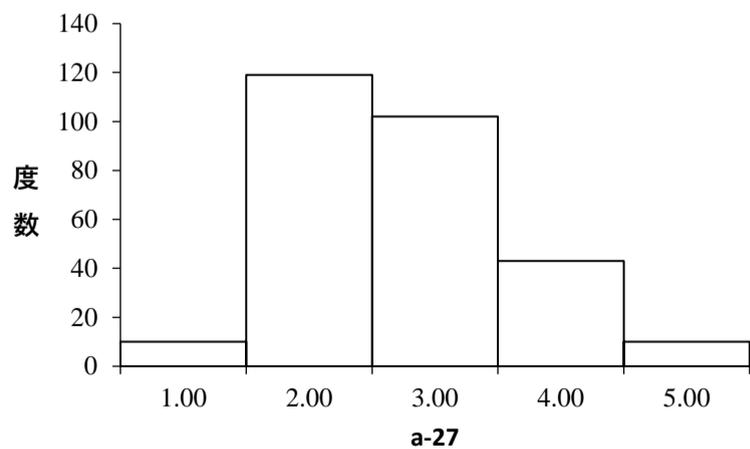


区間	級代表値	度数
1	1.00	10
2	2.00	76
3	3.00	129
4	4.00	45
5	5.00	23
合計		283

平均値 2.982 歪度 0.363 正規性 0.252
 標準偏差 0.947 尖度 -0.084 補正p値 .000

現在の職場の仕事は自分の期待していたものとは異なる。(a-27)

出現数 5



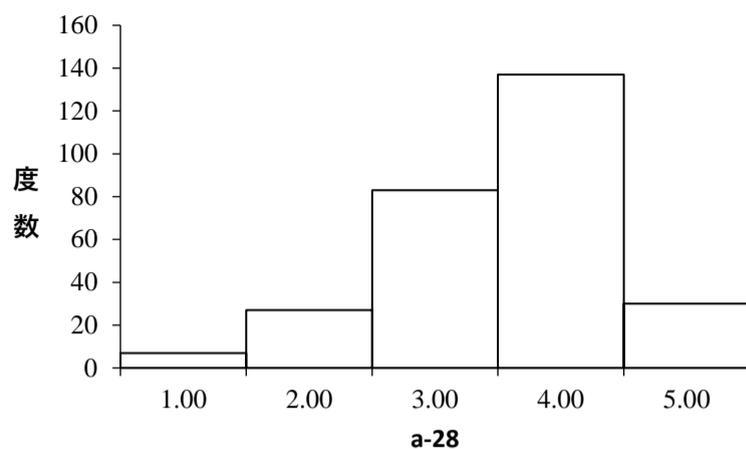
区間	級代表値	度数
1	1.00	10
2	2.00	119
3	3.00	102
4	4.00	43
5	5.00	10
合計		284

平均値 2.732 歪度 0.551 正規性 0.250
 標準偏差 0.885 尖度 -0.089 補正p値 .000

職務満足項目ヒストグラム-10

コメディカルスタッフは私にとって大切な支えとなっている。(a-28)

出現数 5

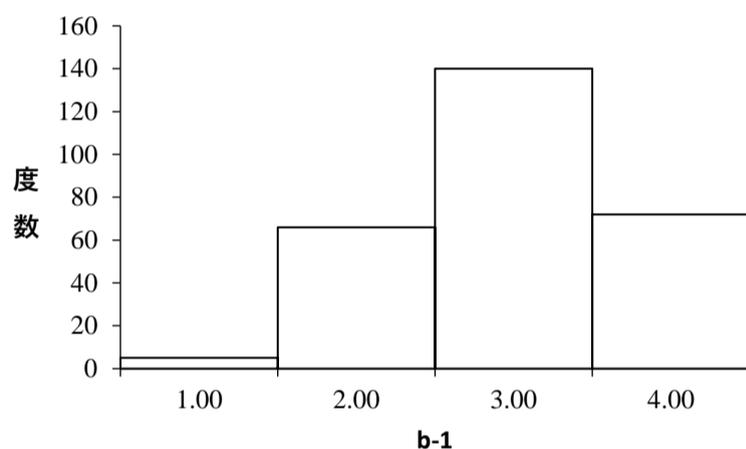


区間	級代表値	度数
1	1.00	7
2	2.00	27
3	3.00	83
4	4.00	137
5	5.00	30
合計		284

平均値 3.549 歪度 -0.627 正規性 0.281
 標準偏差 0.894 尖度 0.339 補正p値 .000

労働時間の短縮である。(b-1)

出現数 4

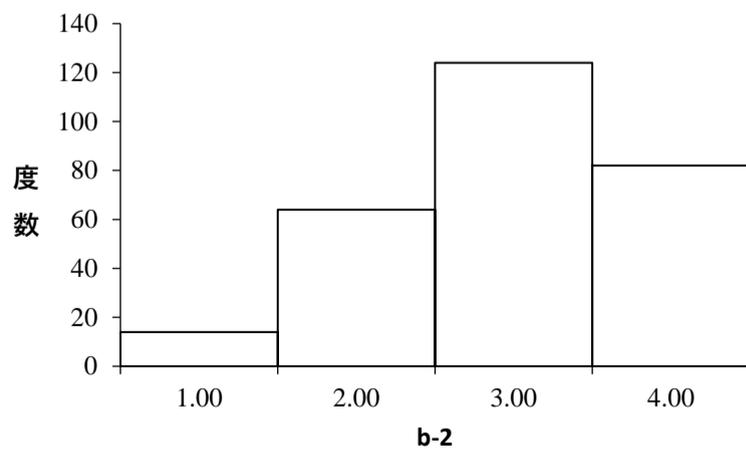


区間	級代表値	度数
1	1.00	5
2	2.00	66
3	3.00	140
4	4.00	72
合計		283

平均値 2.986 歪度 -0.233 正規性 0.257
 標準偏差 0.748 尖度 -0.535 補正p値 .000

報酬の増加である。(b-2)

出現数 4



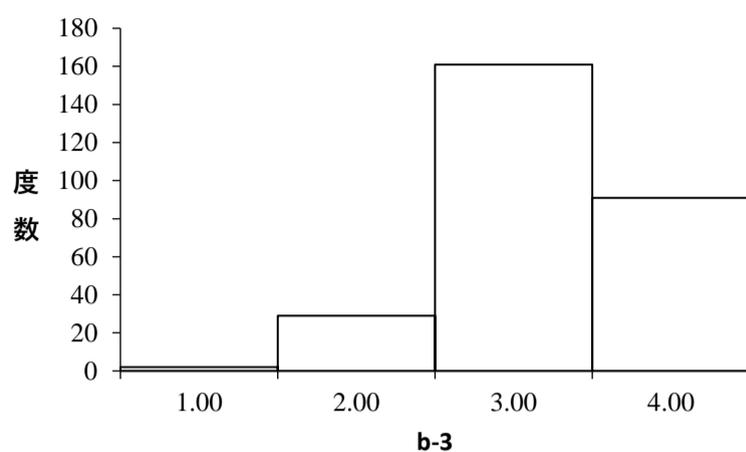
区間	級代表値	度数
1	1.00	14
2	2.00	64
3	3.00	124
4	4.00	82
合計		284

平均値 2.965 歪度 -0.430 正規性 0.242
 標準偏差 0.844 尖度 -0.485 補正p値 .000

職務満足項目ヒストグラム-11

家族と過ごす時間の確保である。(b-3)

出現数 4

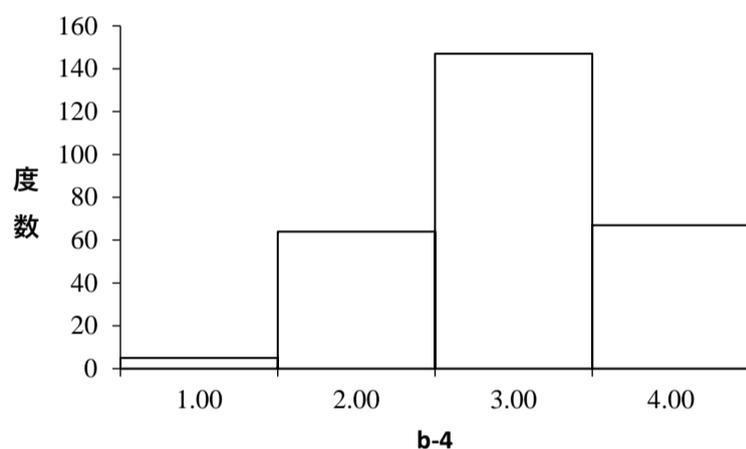


区間	級代表値	度数
1	1.00	2
2	2.00	29
3	3.00	161
4	4.00	91
合計		283

平均値 3.205 歪度 -0.376 正規性 0.304
 標準偏差 0.642 尖度 0.067 補正p値 .000

宿日直業務(時間外業務)を減少させることである。(b-4)

出現数 4

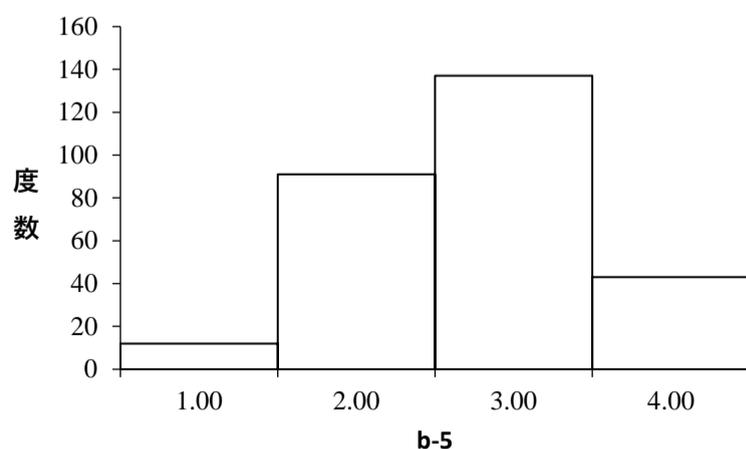


区間	級代表値	度数
1	1.00	5
2	2.00	64
3	3.00	147
4	4.00	67
合計		283

平均値 2.975 歪度 -0.236 正規性 0.270
 標準偏差 0.731 尖度 -0.400 補正p値 .000

複数主治医師の導入である。(b-5)

出現数 4

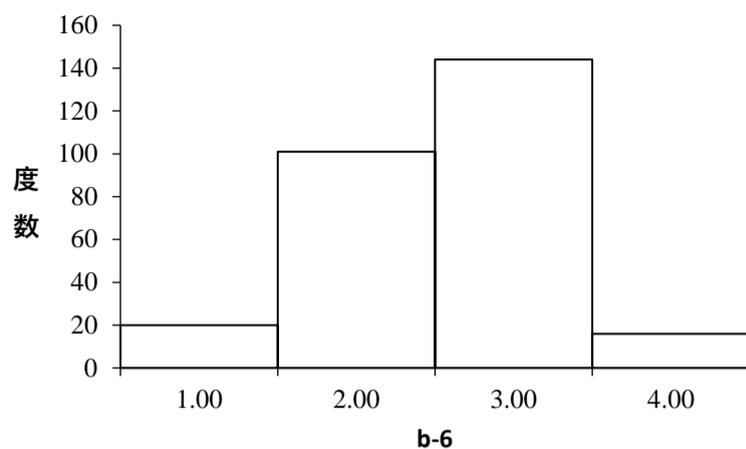


区間	級代表値	度数
1	1.00	12
2	2.00	91
3	3.00	137
4	4.00	43
合計		283

平均値 2.746 歪度 -0.116 正規性 0.267
 標準偏差 0.762 尖度 -0.381 補正p値 .000

職務満足項目ヒストグラム-12

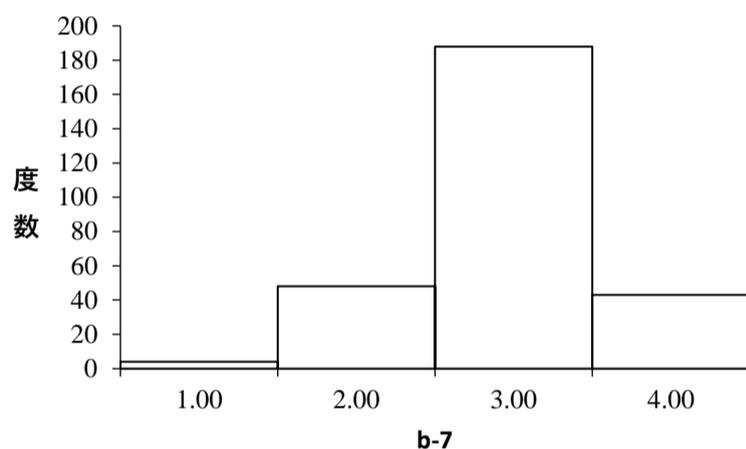
患者との良好な関係を構築できるシステム形成である。(b-6) 出現数 4



区間	級代表値	度数
1	1.00	20
2	2.00	101
3	3.00	144
4	4.00	16
合計		281

平均値 2.555 歪度 -0.316 正規性 0.304
 標準偏差 0.711 尖度 -0.143 補正p値 .000

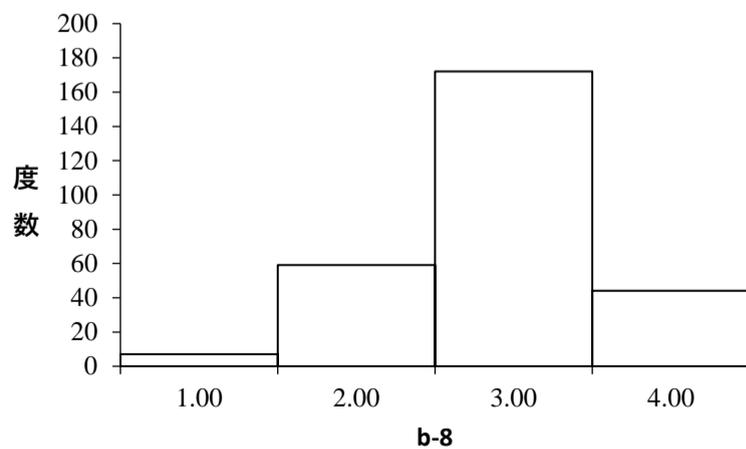
自己研鑽に活用できる時間の確保である。(b-7) 出現数 4



区間	級代表値	度数
1	1.00	4
2	2.00	48
3	3.00	188
4	4.00	43
合計		283

平均値 2.954 歪度 -0.344 正規性 0.346
 標準偏差 0.614 尖度 0.773 補正p値 .000

女性医師の労働環境の整備である。(b-8) 出現数 4

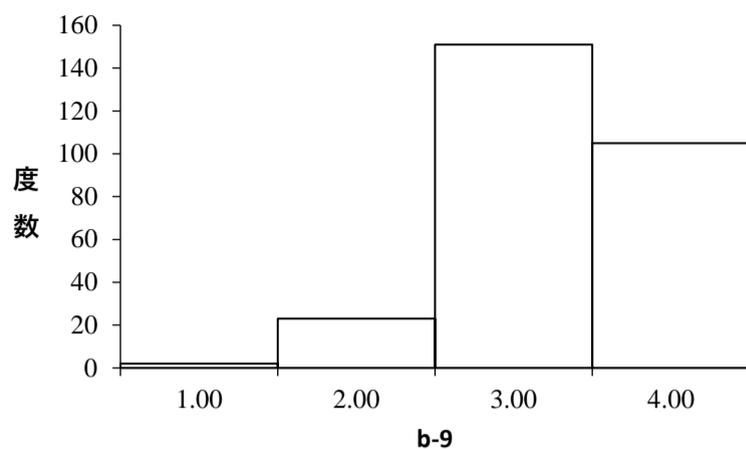


区間	級代表値	度数
1	1.00	7
2	2.00	59
3	3.00	172
4	4.00	44
合計		282

平均値 2.897 歪度 -0.364 正規性 0.327
 標準偏差 0.675 尖度 0.366 補正p値 .000

職務満足項目ヒストグラム-13

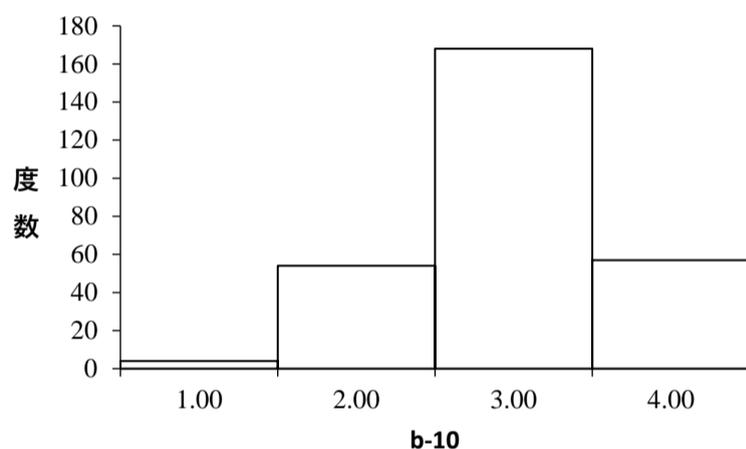
医師事務作業補助者の活用による医師の生産性の向上である。(b-9) 出現数 4



区間	級代表値	度数
1	1.00	2
2	2.00	23
3	3.00	151
4	4.00	105
合計		281

平均値 3.278 歪度 -0.486 正規性 0.294
 標準偏差 0.639 尖度 0.131 補正p値 .000

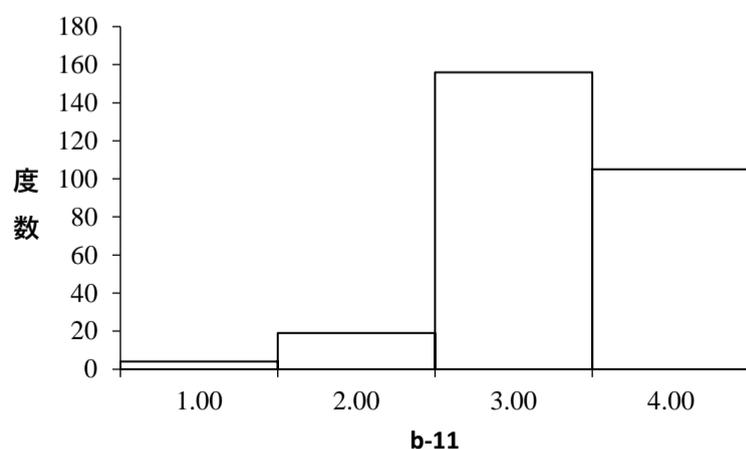
電子カルテやIoTなどの情報技術(ICT)の活用である。(b-10) 出現数 4



区間	級代表値	度数
1	1.00	4
2	2.00	54
3	3.00	168
4	4.00	57
合計		283

平均値 2.982 歪度 -0.263 正規性 0.306
 標準偏差 0.671 尖度 0.065 補正p値 .000

書類作成業務の縮小である。(b-11) 出現数 4



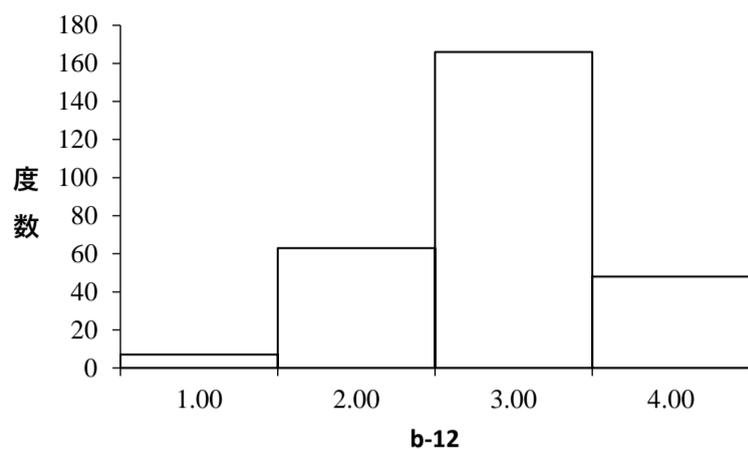
区間	級代表値	度数
1	1.00	4
2	2.00	19
3	3.00	156
4	4.00	105
合計		284

平均値 3.275 歪度 -0.651 正規性 0.295
 標準偏差 0.647 尖度 0.816 補正p値 .000

職務満足項目ヒストグラム-14

学会や研究会への参加を奨励、サポートすることである。(b-12)

出現数 4

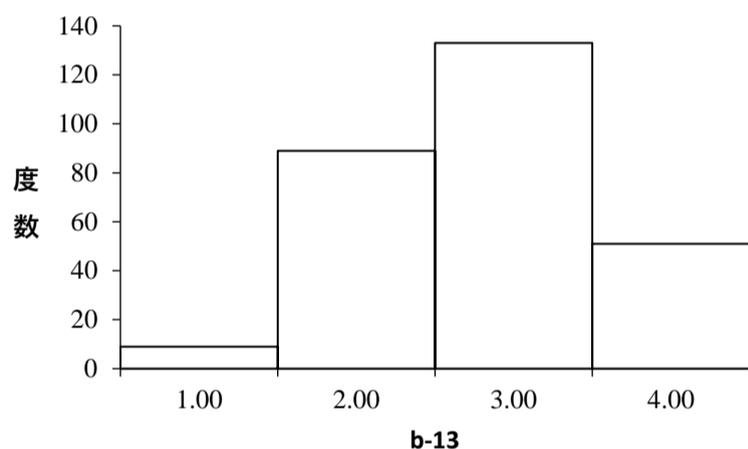


区間	級代表値	度数
1	1.00	7
2	2.00	63
3	3.00	166
4	4.00	48
合計		284

平均値 2.898 歪度 -0.310 正規性 0.312
 標準偏差 0.693 尖度 0.133 補正p値 .000

成果主義に基づく経済的インセンティブの付与である。(b-13)

出現数 4

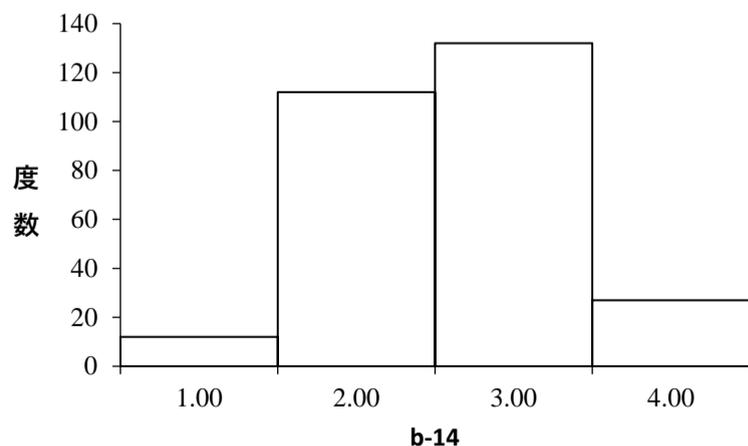


区間	級代表値	度数
1	1.00	9
2	2.00	89
3	3.00	133
4	4.00	51
合計		282

平均値 2.801 歪度 -0.076 正規性 0.255
 標準偏差 0.766 尖度 -0.530 補正p値 .000

最新の医療機器の導入や治療の獲得など医療レベルの向上である。(b-14)

出現数 4

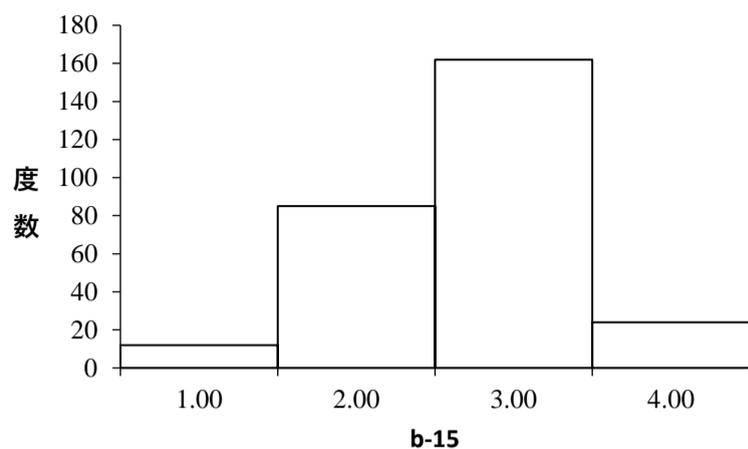


区間	級代表値	度数
1	1.00	12
2	2.00	112
3	3.00	132
4	4.00	27
合計		283

平均値 2.615 歪度 0.026 正規性 0.266
 標準偏差 0.717 尖度 -0.294 補正p値 .000

職務満足項目ヒストグラム-15

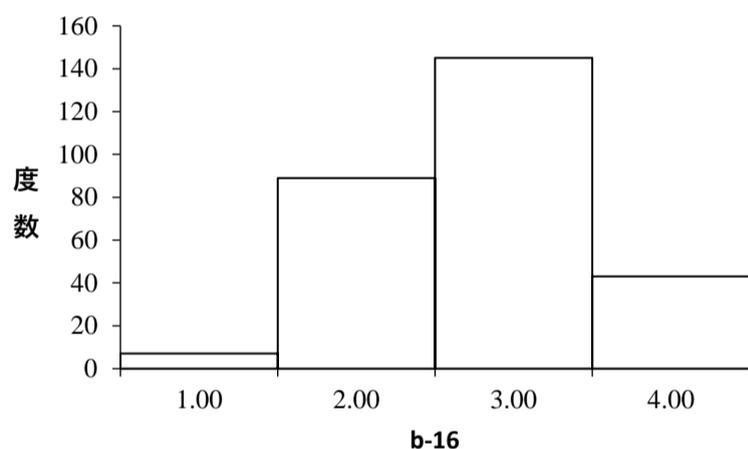
職務内容を自立的に決定できることである。(b-15) 出現数 4



区間	級代表値	度数
1	1.00	12
2	2.00	85
3	3.00	162
4	4.00	24
合計		283

平均値 2.700 歪度 -0.346 正規性 0.327
 標準偏差 0.683 尖度 0.142 補正p値 .000

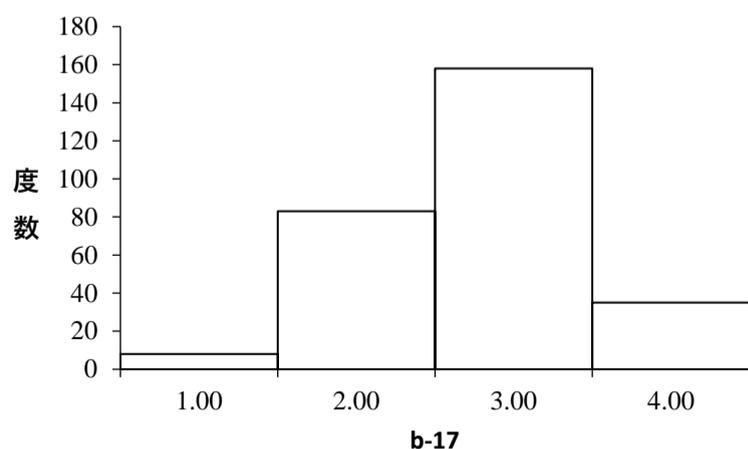
労働時間をフレックスタイム制やシフト制にすることである。(b-16) 出現数 4



区間	級代表値	度数
1	1.00	7
2	2.00	89
3	3.00	145
4	4.00	43
合計		284

平均値 2.789 歪度 -0.056 正規性 0.277
 標準偏差 0.722 尖度 -0.382 補正p値 .000

専門医などの資格取得のサポートシステムである。(b-17) 出現数 4

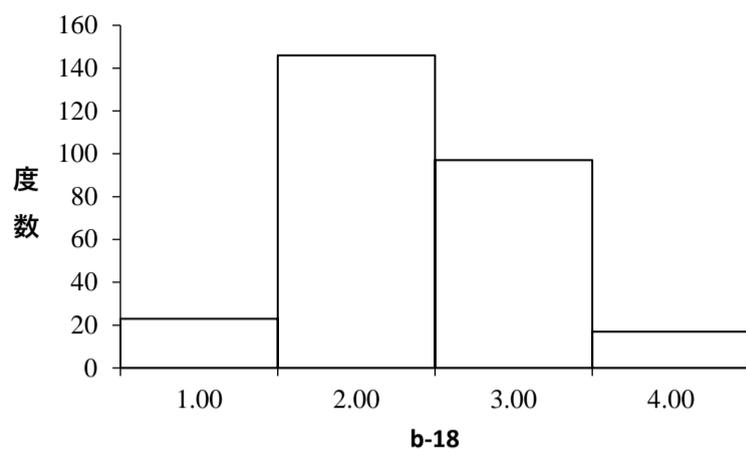


区間	級代表値	度数
1	1.00	8
2	2.00	83
3	3.00	158
4	4.00	35
合計		284

平均値 2.775 歪度 -0.183 正規性 0.307
 標準偏差 0.692 尖度 -0.067 補正p値 .000

職務満足項目ヒストグラム-16

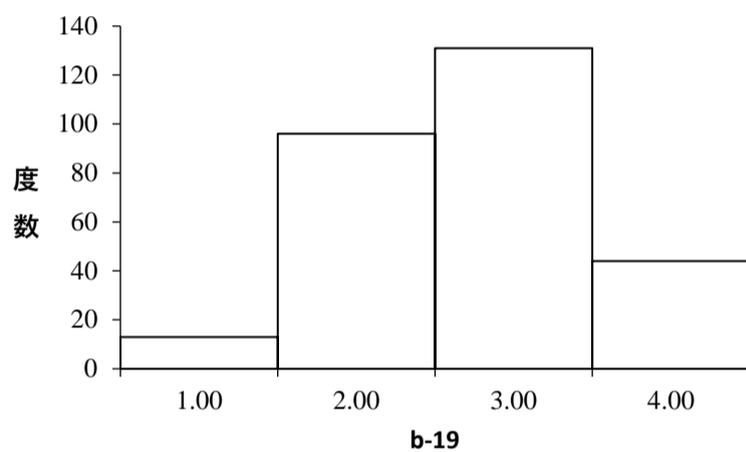
医師のブランド化を戦略的にサポートすることである。(b-18) 出現数 4



区間	級代表値	度数
1	1.00	23
2	2.00	146
3	3.00	97
4	4.00	17
合計		283

平均値 2.382 歪度 0.249 正規性 0.299
 標準偏差 0.721 尖度 -0.121 補正p値 .000

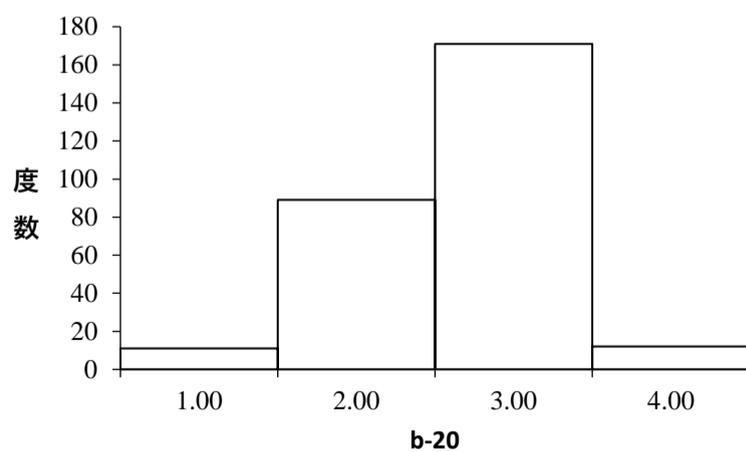
医療の不確実性を患者に認識してもらい啓発活動である。(b-19) 出現数 4



区間	級代表値	度数
1	1.00	13
2	2.00	96
3	3.00	131
4	4.00	44
合計		284

平均値 2.725 歪度 -0.073 正規性 0.254
 標準偏差 0.776 尖度 -0.462 補正p値 .000

同僚と良好な関係を構築できる環境の提供である。(b-20) 出現数 4

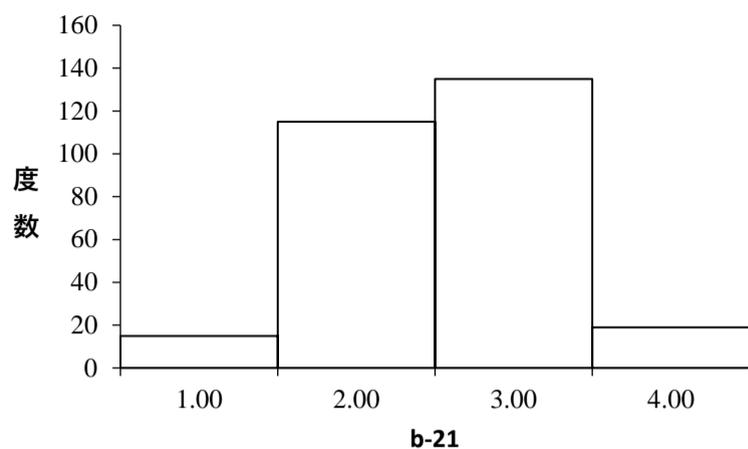


区間	級代表値	度数
1	1.00	11
2	2.00	89
3	3.00	171
4	4.00	12
合計		283

平均値 2.650 歪度 -0.541 正規性 0.359
 標準偏差 0.626 尖度 0.276 補正p値 .000

職務満足項目ヒストグラム-17

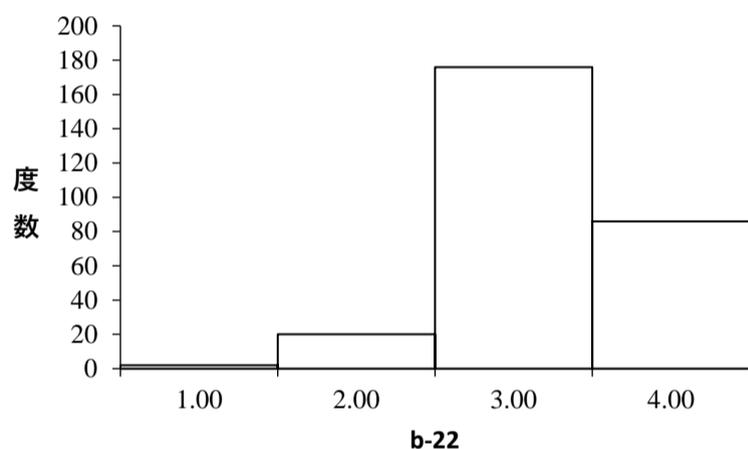
留学支援制度やキャリアサポートシステムを構築することである。(b-21) 出現数 4



区間	級代表値	度数
1	1.00	15
2	2.00	115
3	3.00	135
4	4.00	19
合計		284

平均値 2.556 歪度 -0.077 正規性 0.280
 標準偏差 0.699 尖度 -0.201 補正p値 .000

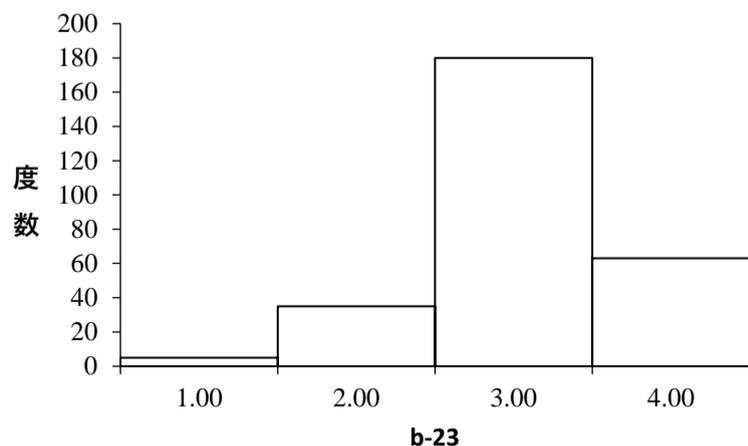
勤務医師の健康状態(肉体、精神)に配慮することである。(b-22) 出現数 4



区間	級代表値	度数
1	1.00	2
2	2.00	20
3	3.00	176
4	4.00	86
合計		284

平均値 3.218 歪度 -0.315 正規性 0.340
 標準偏差 0.596 尖度 0.548 補正p値 .000

他職種へのタスクシフティング(業務移管)である。(b-23) 出現数 4

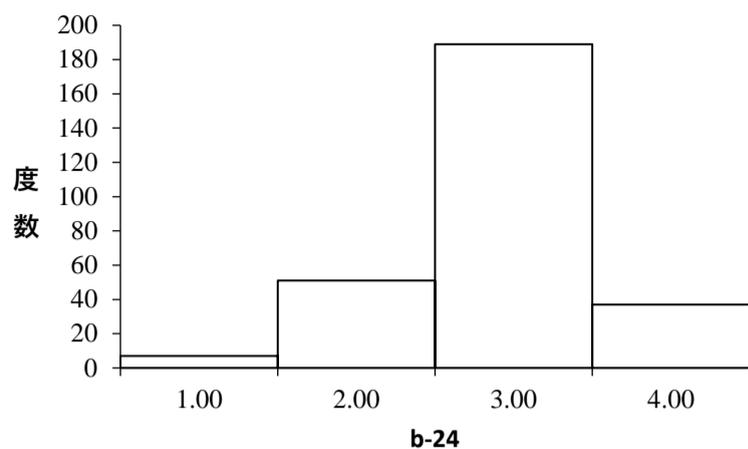


区間	級代表値	度数
1	1.00	5
2	2.00	35
3	3.00	180
4	4.00	63
合計		283

平均値 3.064 歪度 -0.460 正規性 0.319
 標準偏差 0.644 尖度 0.847 補正p値 .000

職務満足項目ヒストグラム-18

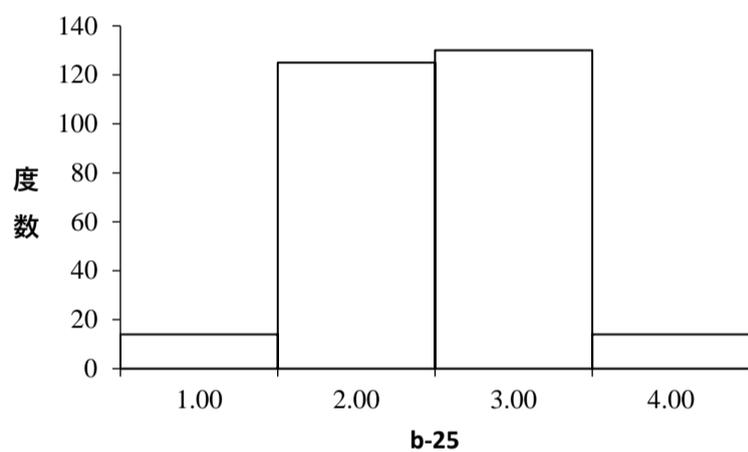
かかりつけ医や他医療機関など地域における連携の強化である。(b-24) 出現数 4



区間	級代表値	度数
1	1.00	7
2	2.00	51
3	3.00	189
4	4.00	37
合計		284

平均値 2.901 歪度 -0.509 正規性 0.358
 標準偏差 0.633 尖度 1.005 補正p値 .000

産業医を含めた職務に関する相談窓口の活用である。(b-25) 出現数 4



区間	級代表値	度数
1	1.00	14
2	2.00	125
3	3.00	130
4	4.00	14
合計		283

平均値 2.509 歪度 -0.032 正規性 0.277
 標準偏差 0.670 尖度 -0.203 補正p値 .000

働き方改革要約統計量

サンプルサイズ

286

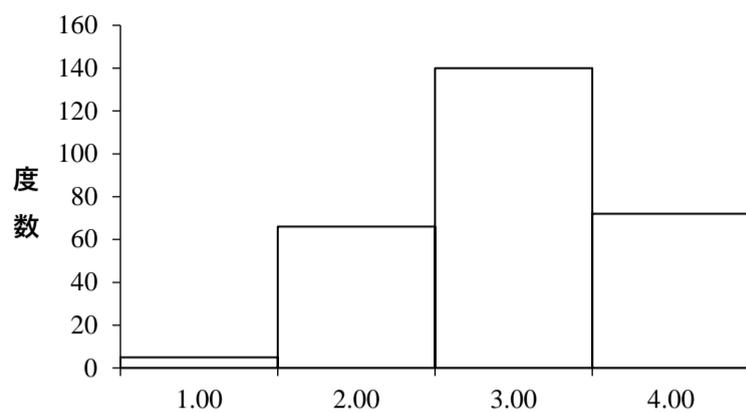
※分散は不偏分散、標準偏差は不偏分散の平方根が出力されています。

変数名	有効N	平均値	中央値	標準偏差	分散	最小値	最大値
労働時間の短縮である。	283	2.986	3.000	0.748	0.560	1.000	4.000
報酬の増加である。	284	2.965	3.000	0.844	0.713	1.000	4.000
家族と過ごす時間の確保である。	283	3.205	3.000	0.642	0.412	1.000	4.000
宿日直業務(時間外業務)を減少させることである。	283	2.975	3.000	0.731	0.535	1.000	4.000
複数主治医師の導入である。	283	2.746	3.000	0.762	0.580	1.000	4.000
患者との良好な関係を構築できるシステム形成である。	281	2.555	3.000	0.711	0.505	1.000	4.000
自己研鑽に活用できる時間の確保である。	283	2.954	3.000	0.614	0.377	1.000	4.000
女性医師の労働環境の整備である。	282	2.897	3.000	0.675	0.456	1.000	4.000
医師事務作業補助者の活用による医師の生産性の向上である。	281	3.278	3.000	0.639	0.408	1.000	4.000
電子カルテやIoTなどの情報技術(ICT)の活用である。	283	2.982	3.000	0.671	0.450	1.000	4.000
書類作成業務の縮小である。	284	3.275	3.000	0.647	0.419	1.000	4.000
学会や研究会への参加を奨励、サポートすることである。	284	2.898	3.000	0.693	0.481	1.000	4.000
成果主義に基づく経済的インセンティブの付与である。	282	2.801	3.000	0.766	0.587	1.000	4.000
最新の医療機器の導入や治験の獲得など医療レベルの向上である。	283	2.615	3.000	0.717	0.514	1.000	4.000
職務内容を自律的に決定できることである。	283	2.700	3.000	0.683	0.466	1.000	4.000
労働時間をフレックスタイム制やシフト制にすることである。	284	2.789	3.000	0.722	0.521	1.000	4.000
専門医などの資格取得のサポートシステムである。	284	2.775	3.000	0.692	0.479	1.000	4.000
医師のブランド化を戦略的にサポートすることである。	283	2.382	2.000	0.721	0.521	1.000	4.000
医療の不確実性を患者に認識してもらう啓発活動である。	284	2.725	3.000	0.776	0.603	1.000	4.000
同僚と良好な関係を構築できる環境の提供である。	283	2.650	3.000	0.626	0.391	1.000	4.000
留学支援制度やキャリアサポートシステムを構築することである。	284	2.556	3.000	0.699	0.488	1.000	4.000
勤務医師の健康状態(肉体、精神)に配慮することである。	284	3.218	3.000	0.596	0.355	1.000	4.000
他職種へのタスクシフティング(業務移管)である。	283	3.064	3.000	0.644	0.414	1.000	4.000
かかりつけ医や他医療機関など地域における連携の強化である。	284	2.901	3.000	0.633	0.400	1.000	4.000
産業医を含めた職務に関する相談窓口の活用である。	283	2.509	3.000	0.670	0.449	1.000	4.000

働き方改革ヒストグラム-1

労働時間の短縮である。(b-1)

出現数 4

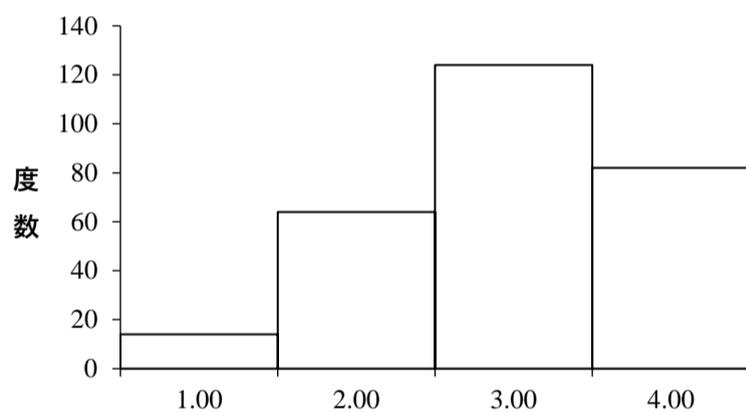


区間	級代表値	度数
1	1.00	5
2	2.00	66
3	3.00	140
4	4.00	72
合計		283

平均値 2.986 歪度 -0.233 正規性 0.257
 標準偏差 0.748 尖度 -0.535 補正p値 .000

報酬の増加である。(b-2)

出現数 4

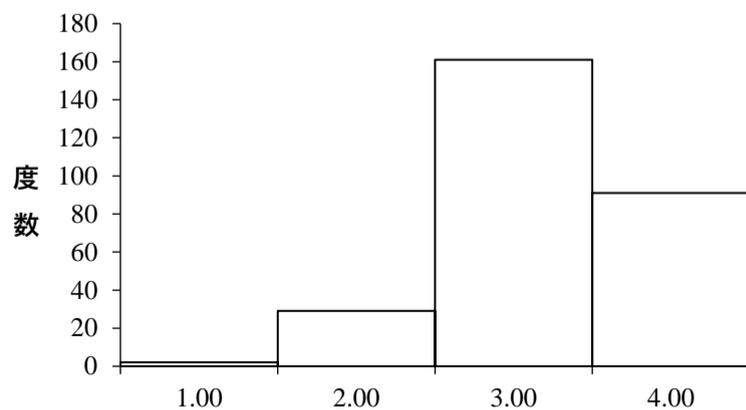


区間	級代表値	度数
1	1.00	14
2	2.00	64
3	3.00	124
4	4.00	82
合計		284

平均値 2.965 歪度 -0.430 正規性 0.242
 標準偏差 0.844 尖度 -0.485 補正p値 .000

家族と過ごす時間の確保である。(b-3)

出現数 4



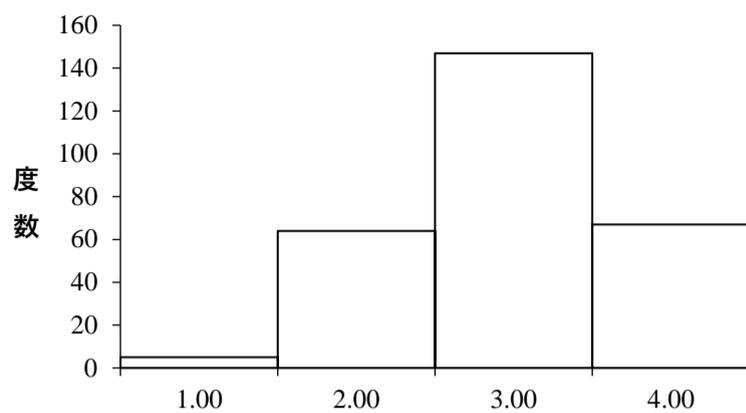
区間	級代表値	度数
1	1.00	2
2	2.00	29
3	3.00	161
4	4.00	91
合計		283

平均値 3.205 歪度 -0.376 正規性 0.304
 標準偏差 0.642 尖度 0.067 補正p値 .000

働き方改革ヒストグラム-2

宿日直業務(時間外業務)を減少させることである。(b-4)

出現数 4

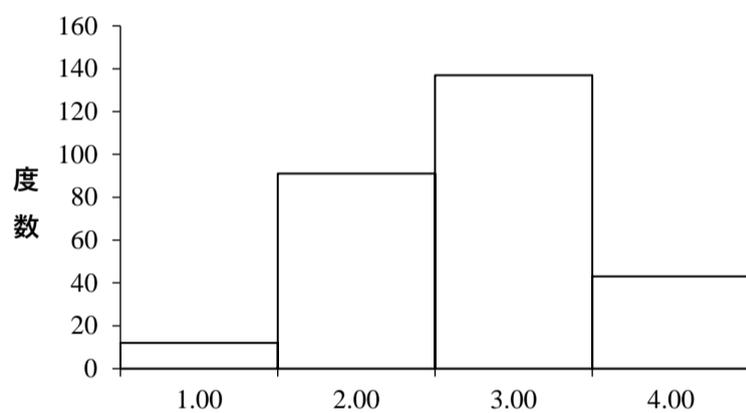


区間	級代表値	度数
1	1.00	5
2	2.00	64
3	3.00	147
4	4.00	67
合計		283

平均値 2.975 歪度 -0.236 正規性 0.270
 標準偏差 0.731 尖度 -0.400 補正p値 .000

複数主治医師の導入である。(b-5)

出現数 4

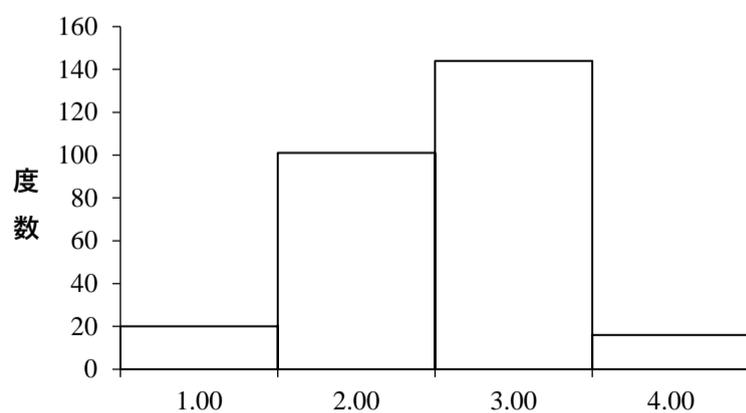


区間	級代表値	度数
1	1.00	12
2	2.00	91
3	3.00	137
4	4.00	43
合計		283

平均値 2.746 歪度 -0.116 正規性 0.267
 標準偏差 0.762 尖度 -0.381 補正p値 .000

患者との良好な関係を構築できるシステム形成である。(b-6)

出現数 4

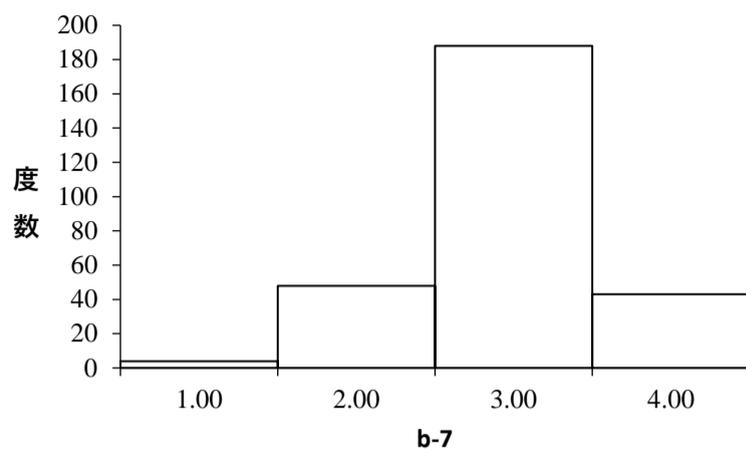


区間	級代表値	度数
1	1.00	20
2	2.00	101
3	3.00	144
4	4.00	16
合計		281

平均値 2.555 歪度 -0.316 正規性 0.304
 標準偏差 0.711 尖度 -0.143 補正p値 .000

働き方改革ヒストグラム-3

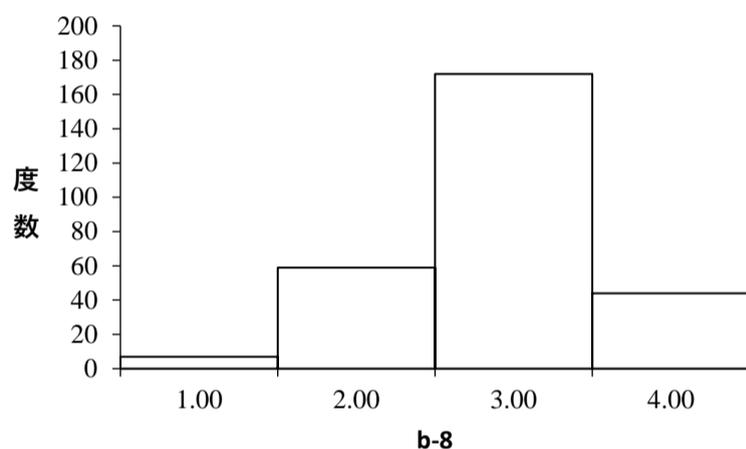
自己研鑽に活用できる時間の確保である。(b-7) 出現数 4



区間	級代表値	度数
1	1.00	4
2	2.00	48
3	3.00	188
4	4.00	43
合計		283

平均値 2.954 歪度 -0.344 正規性 0.346
 標準偏差 0.614 尖度 0.773 補正p値 .000

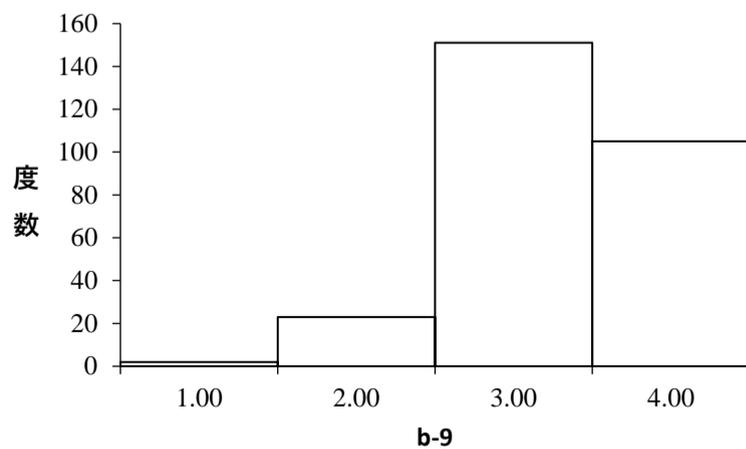
女性医師の労働環境の整備である。(b-8) 出現数 4



区間	級代表値	度数
1	1.00	7
2	2.00	59
3	3.00	172
4	4.00	44
合計		282

平均値 2.897 歪度 -0.364 正規性 0.327
 標準偏差 0.675 尖度 0.366 補正p値 .000

医師事務作業補助者の活用による医師の生産性の向上である。(b-9) 出現数 4



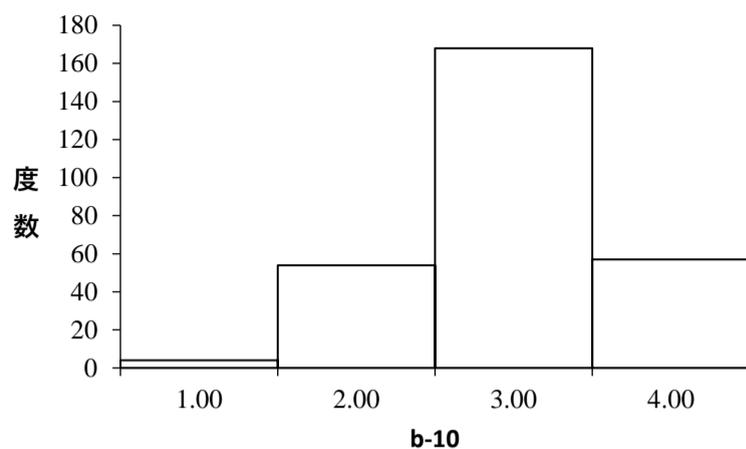
区間	級代表値	度数
1	1.00	2
2	2.00	23
3	3.00	151
4	4.00	105
合計		281

平均値 3.278 歪度 -0.486 正規性 0.294
 標準偏差 0.639 尖度 0.131 補正p値 .000

働き方改革ヒストグラム-4

電子カルテやIoTなどの情報技術(ICT)の活用である。(b-10)

出現数 4

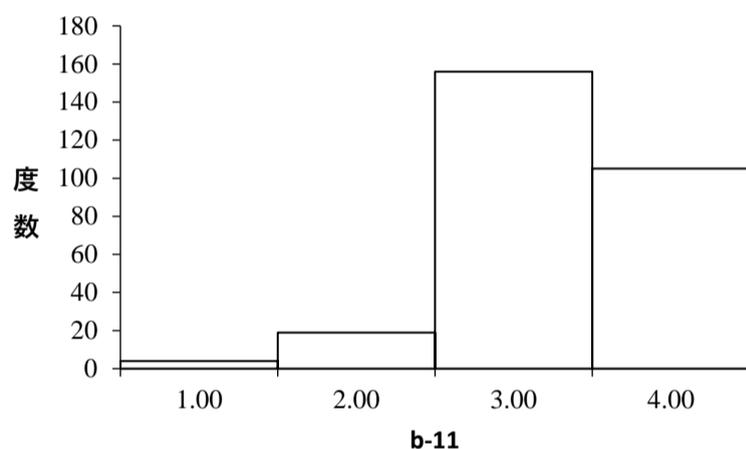


区間	級代表値	度数
1	1.00	4
2	2.00	54
3	3.00	168
4	4.00	57
合計		283

平均値 2.982 歪度 -0.263 正規性 0.306
 標準偏差 0.671 尖度 0.065 補正p値 .000

書類作成業務の縮小である。(b-11)

出現数 4

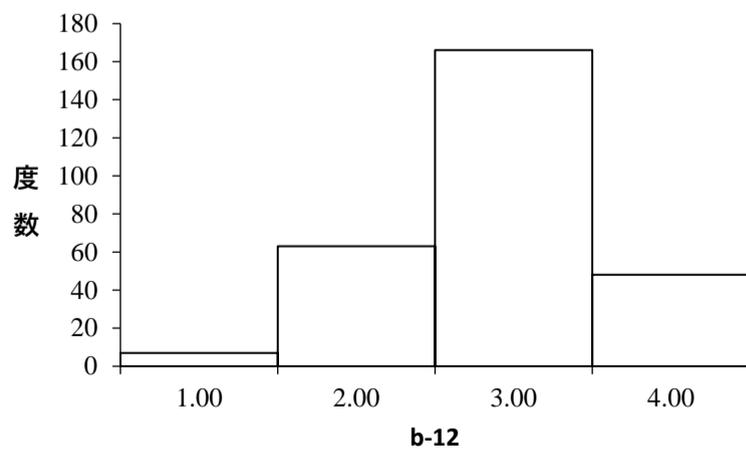


区間	級代表値	度数
1	1.00	4
2	2.00	19
3	3.00	156
4	4.00	105
合計		284

平均値 3.275 歪度 -0.651 正規性 0.295
 標準偏差 0.647 尖度 0.816 補正p値 .000

学会や研究会への参加を奨励、サポートすることである。(b-12)

出現数 4



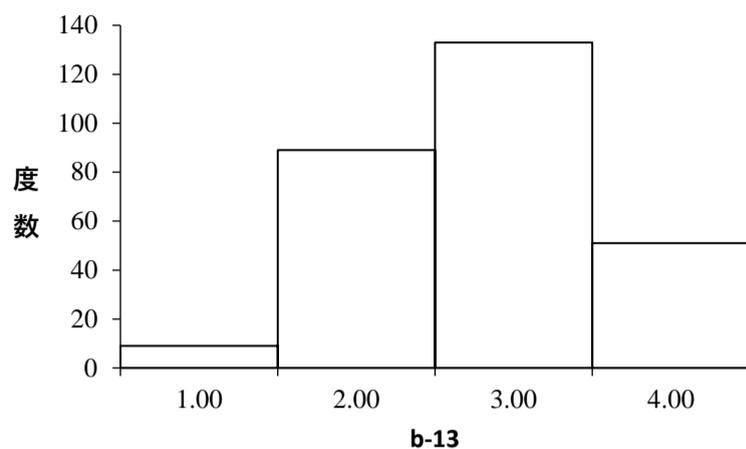
区間	級代表値	度数
1	1.00	7
2	2.00	63
3	3.00	166
4	4.00	48
合計		284

平均値 2.898 歪度 -0.310 正規性 0.312
 標準偏差 0.693 尖度 0.133 補正p値 .000

働き方改革ヒストグラム-5

成果主義に基づく経済的インセンティブの付与である。(b-13)

出現数 4

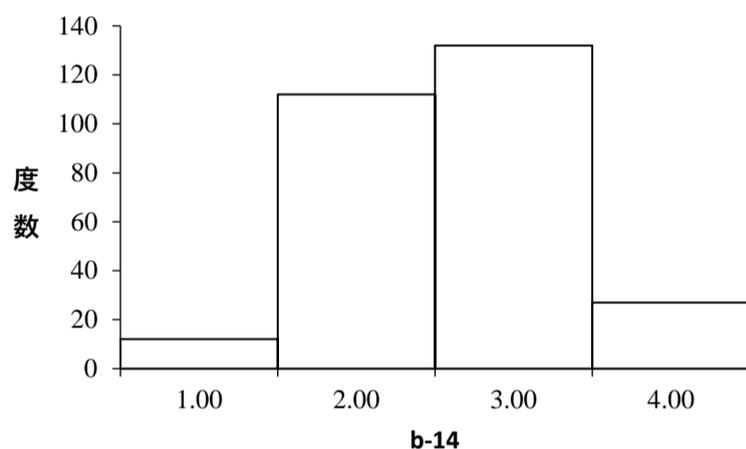


区間	級代表値	度数
1	1.00	9
2	2.00	89
3	3.00	133
4	4.00	51
合計		282

平均値 2.801 歪度 -0.076 正規性 0.255
 標準偏差 0.766 尖度 -0.530 補正p値 .000

最新の医療機器の導入や治験の獲得など医療レベルの向上である。(b-14)

出現数 4

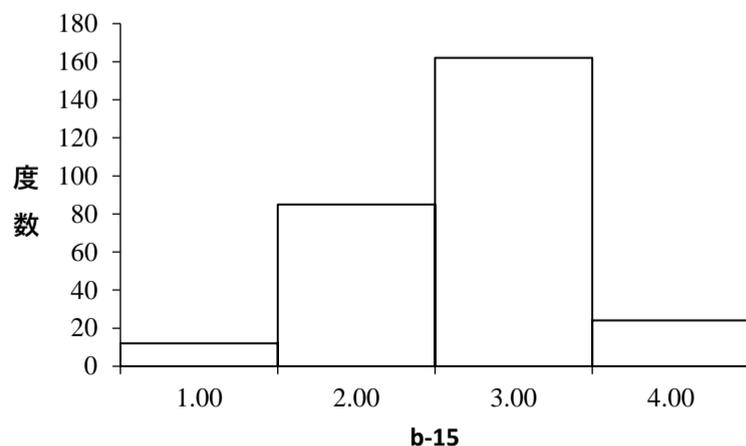


区間	級代表値	度数
1	1.00	12
2	2.00	112
3	3.00	132
4	4.00	27
合計		283

平均値 2.615 歪度 0.026 正規性 0.266
 標準偏差 0.717 尖度 -0.294 補正p値 .000

職務内容を自律的に決定できることである。(b-15)

出現数 4



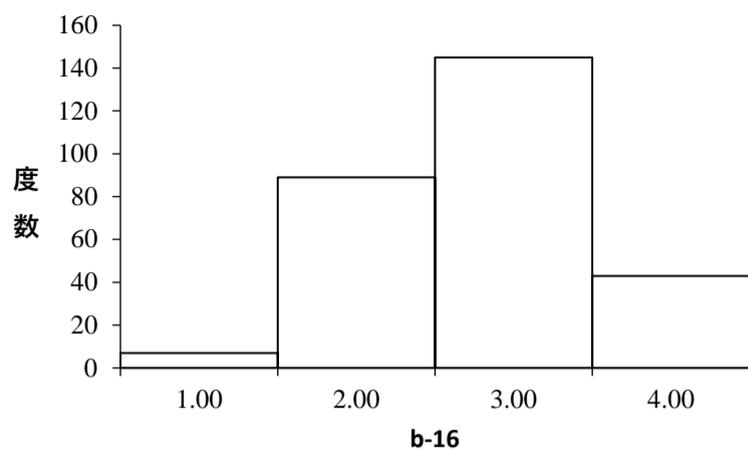
区間	級代表値	度数
1	1.00	12
2	2.00	85
3	3.00	162
4	4.00	24
合計		283

平均値 2.700 歪度 -0.346 正規性 0.327
 標準偏差 0.683 尖度 0.142 補正p値 .000

働き方改革ヒストグラム-6

労働時間をフレックスタイム制やシフト制にすることである。(b-16)

出現数 4

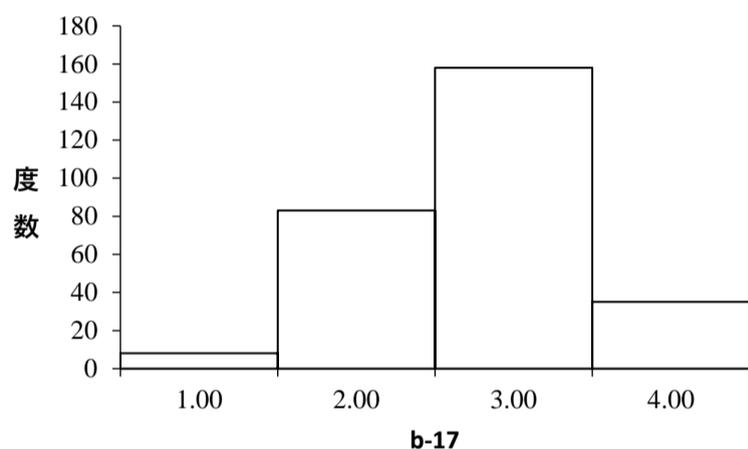


区間	級代表値	度数
1	1.00	7
2	2.00	89
3	3.00	145
4	4.00	43
合計		284

平均値 2.789 歪度 -0.056 正規性 0.277
 標準偏差 0.722 尖度 -0.382 補正p値 .000

専門医などの資格取得のサポートシステムである。(b-17)

出現数 4

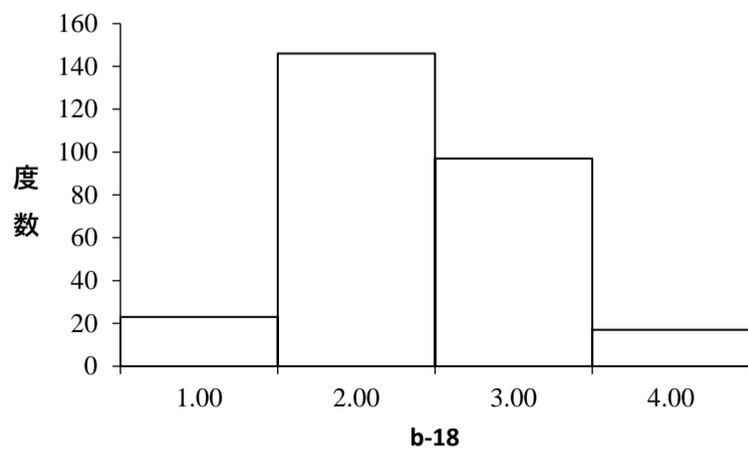


区間	級代表値	度数
1	1.00	8
2	2.00	83
3	3.00	158
4	4.00	35
合計		284

平均値 2.775 歪度 -0.183 正規性 0.307
 標準偏差 0.692 尖度 -0.067 補正p値 .000

医師のブランド化を戦略的にサポートすることである。(b-18)

出現数 4



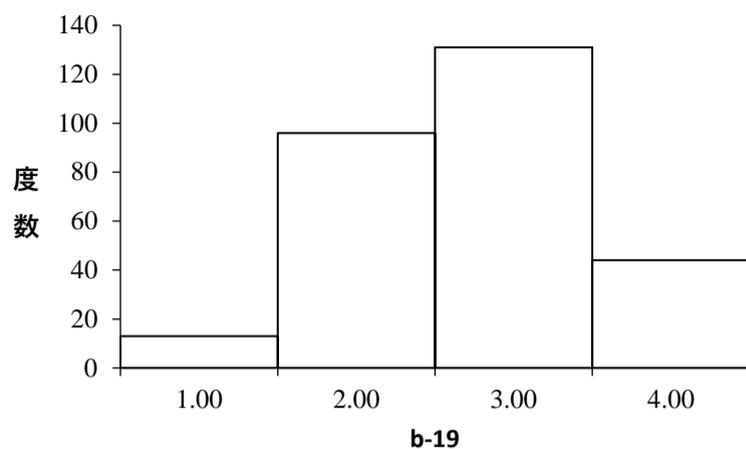
区間	級代表値	度数
1	1.00	23
2	2.00	146
3	3.00	97
4	4.00	17
合計		283

平均値 2.382 歪度 0.249 正規性 0.299
 標準偏差 0.721 尖度 -0.121 補正p値 .000

働き方改革ヒストグラム-7

医療の不確実性を患者に認識してもらう啓発活動である。(b-19)

出現数 4

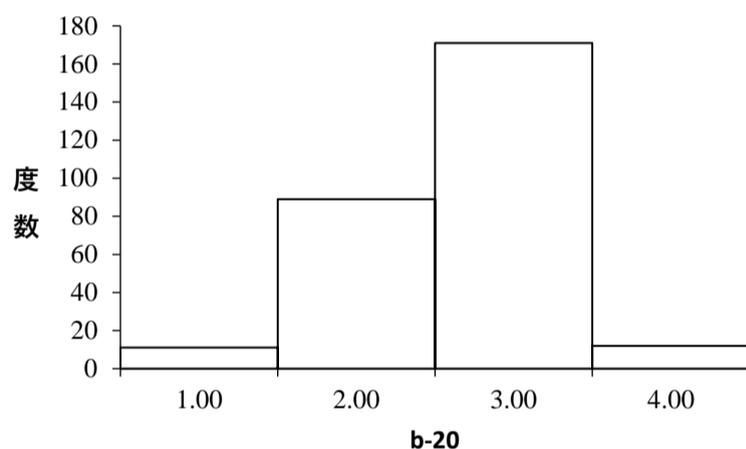


区間	級代表値	度数
1	1.00	13
2	2.00	96
3	3.00	131
4	4.00	44
合計		284

平均値 2.725 歪度 -0.073 正規性 0.254
 標準偏差 0.776 尖度 -0.462 補正p値 .000

同僚と良好な関係を構築できる環境の提供である。(b-20)

出現数 4

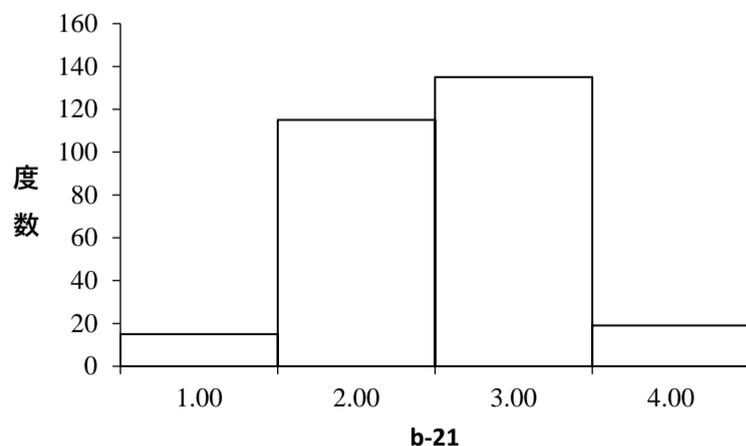


区間	級代表値	度数
1	1.00	11
2	2.00	89
3	3.00	171
4	4.00	12
合計		283

平均値 2.650 歪度 -0.541 正規性 0.359
 標準偏差 0.626 尖度 0.276 補正p値 .000

留学支援制度やキャリアサポートシステムを構築することである。(b-21)

出現数 4



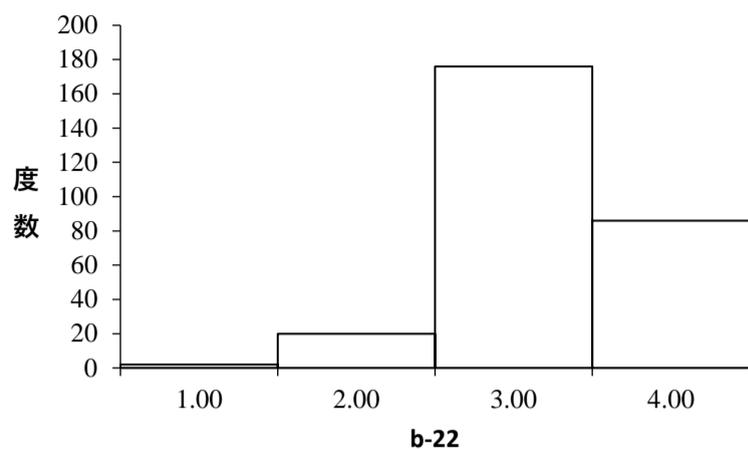
区間	級代表値	度数
1	1.00	15
2	2.00	115
3	3.00	135
4	4.00	19
合計		284

平均値 2.556 歪度 -0.077 正規性 0.280
 標準偏差 0.699 尖度 -0.201 補正p値 .000

働き方改革ヒストグラム-8

勤務医師の健康状態(肉体、精神)に配慮することである。(b-22)

出現数 4

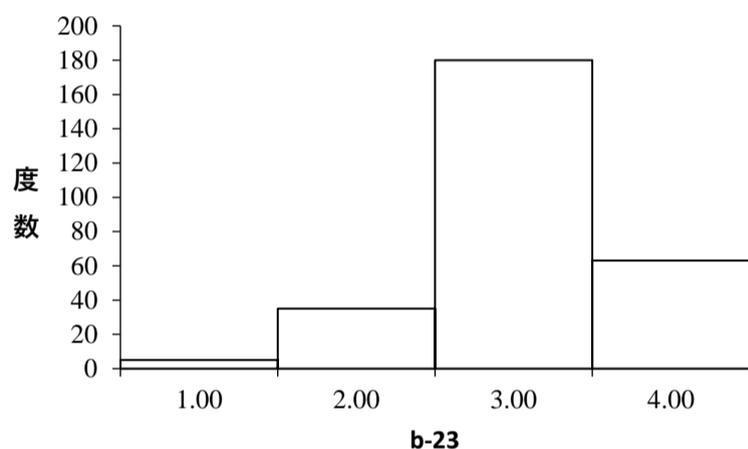


区間	級代表値	度数
1	1.00	2
2	2.00	20
3	3.00	176
4	4.00	86
合計		284

平均値 3.218 歪度 -0.315 正規性 0.340
 標準偏差 0.596 尖度 0.548 補正p値 .000

他職種へのタスクシフティング(業務移管)である。(b-23)

出現数 4

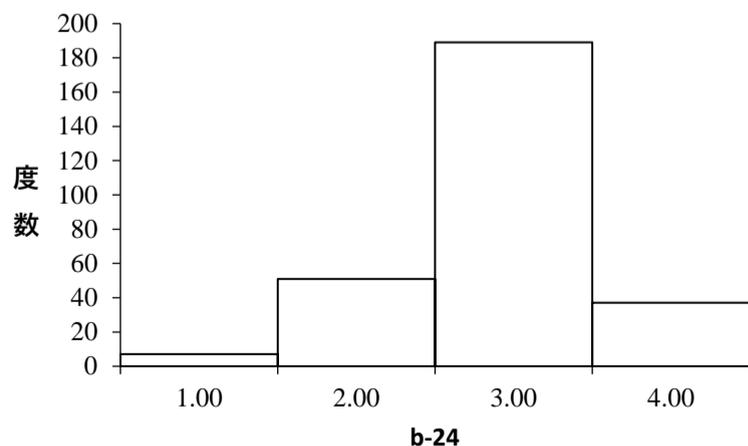


区間	級代表値	度数
1	1.00	5
2	2.00	35
3	3.00	180
4	4.00	63
合計		283

平均値 3.064 歪度 -0.460 正規性 0.319
 標準偏差 0.644 尖度 0.847 補正p値 .000

かかりつけ医や他医療機関など地域における連携の強化である。(b-24)

出現数 4



区間	級代表値	度数
1	1.00	7
2	2.00	51
3	3.00	189
4	4.00	37
合計		284

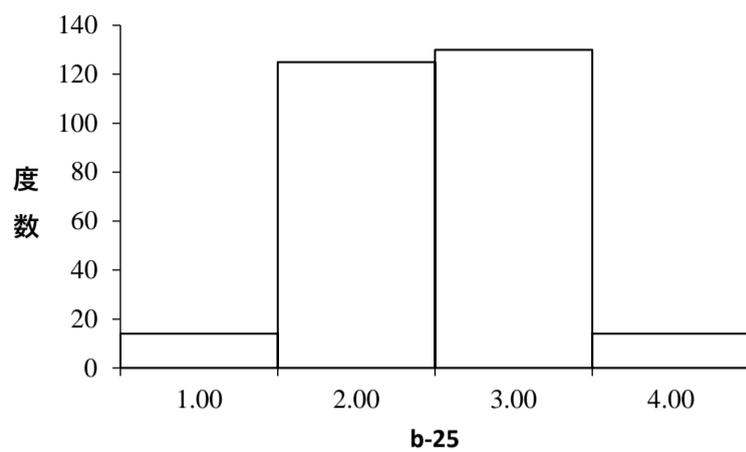
平均値 2.901 歪度 -0.509 正規性 0.358
 標準偏差 0.633 尖度 1.005 補正p値 .000

働き方改革ヒストグラム-9

産業医を含めた職務に関する相談窓口の活用である。(b-25)

出現数 4

区間	級代表値	度数
1	1.00	14
2	2.00	125
3	3.00	130
4	4.00	14
合計		283



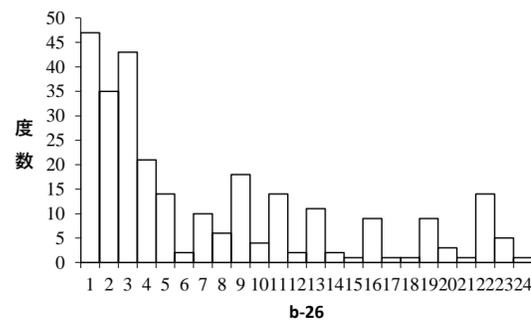
平均値	2.509	歪度	-0.032	正規性	0.277
標準偏差	0.670	尖度	-0.203	補正p値	.000

働き方改革順位

度数分布表

働き方改革第1位 (b-26)

出現値	度数	確率(%)	有効度数	有効確率	累積確率
1	47	16.43	47	17.15	17.15
2	35	12.24	35	12.77	29.93
3	43	15.03	43	15.69	45.62
4	21	7.34	21	7.66	53.28
5	14	4.90	14	5.11	58.39
6	2	0.70	2	0.73	59.12
7	10	3.50	10	3.65	62.77
8	6	2.10	6	2.19	64.96
9	18	6.29	18	6.57	71.53
10	4	1.40	4	1.46	72.99
11	14	4.90	14	5.11	78.10
12	2	0.70	2	0.73	78.83
13	11	3.85	11	4.01	82.85
14	2	0.70	2	0.73	83.58
15	1	0.35	1	0.36	83.94
16	9	3.15	9	3.28	87.23
17	1	0.35	1	0.36	87.59
18	1	0.35	1	0.36	87.96
19	9	3.15	9	3.28	91.24
20	3	1.05	3	1.09	92.34
21	1	0.35	1	0.36	92.70
22	14	4.90	14	5.11	97.81
23	5	1.75	5	1.82	99.64
24	1	0.35	1	0.36	100.00
欠損値	12	4.20			
合計	286	100	274	100	

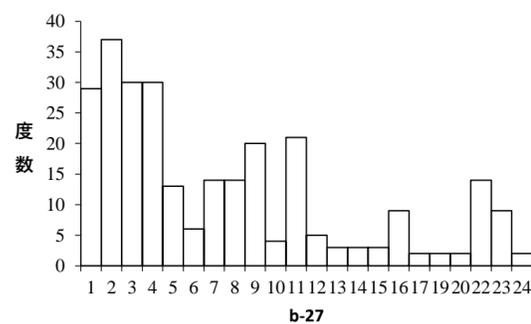


平均値 7.204 歪度 1.075 正規性 0.218
 標準偏差 6.659 尖度 -0.052 補正p値 .000

一様性の検定
 χ^2 乗値 349.825
 自由度 23
 p値 .000

働き方改革第2位 (b-27)

出現値	度数	確率(%)	有効度数	有効確率	累積確率
1	29	10.14	29	10.66	10.66
2	37	12.94	37	13.60	24.26
3	30	10.49	30	11.03	35.29
4	30	10.49	30	11.03	46.32
5	13	4.55	13	4.78	51.10
6	6	2.10	6	2.21	53.31
7	14	4.90	14	5.15	58.46
8	14	4.90	14	5.15	63.60
9	20	6.99	20	7.35	70.96
10	4	1.40	4	1.47	72.43
11	21	7.34	21	7.72	80.15
12	5	1.75	5	1.84	81.99
13	3	1.05	3	1.10	83.09
14	3	1.05	3	1.10	84.19
15	3	1.05	3	1.10	85.29
16	9	3.15	9	3.31	88.60
17	2	0.70	2	0.74	89.34
19	2	0.70	2	0.74	90.07
20	2	0.70	2	0.74	90.81
22	14	4.90	14	5.15	95.96
23	9	3.15	9	3.31	99.26
24	2	0.70	2	0.74	100.00
欠損値	14	4.90			
合計	286	100	272	100	

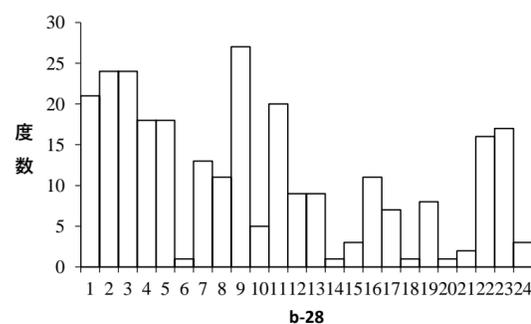


平均値 7.647 歪度 1.108 正規性 0.177
 標準偏差 6.454 尖度 0.252 補正p値 .000

一様性の検定
 χ^2 乗値 204.397
 自由度 21
 p値 .000

働き方改革第3位 (b-28)

出現値	度数	確率(%)	有効度数	有効確率	累積確率
1	21	7.34	21	7.78	7.78
2	24	8.39	24	8.89	16.67
3	24	8.39	24	8.89	25.56
4	18	6.29	18	6.67	32.22
5	18	6.29	18	6.67	38.89
6	1	0.35	1	0.37	39.26
7	13	4.55	13	4.81	44.07
8	11	3.85	11	4.07	48.15
9	27	9.44	27	10.00	58.15
10	5	1.75	5	1.85	60.00
11	20	6.99	20	7.41	67.41
12	9	3.15	9	3.33	70.74
13	9	3.15	9	3.33	74.07
14	1	0.35	1	0.37	74.44
15	3	1.05	3	1.11	75.56
16	11	3.85	11	4.07	79.63
17	7	2.45	7	2.59	82.22
18	1	0.35	1	0.37	82.59
19	8	2.80	8	2.96	85.56
20	1	0.35	1	0.37	85.93
21	2	0.70	2	0.74	86.67
22	16	5.59	16	5.93	92.59
23	17	5.94	17	6.30	98.89
24	3	1.05	3	1.11	100.00
欠損値	16	5.59			
合計	286	100	270	100	



平均値 9.730 歪度 0.604 正規性 0.137
 標準偏差 7.079 尖度 -0.842 補正p値 .000

一様性の検定
 χ^2 乗値 143.511
 自由度 23
 p値 .000

職務満足要因因子分析

サンプル = 278 変数 = 23 因子 = 6

抽出方法 = 最尤法
 回転方法 = プロマックス回転(Power = 4)
 カイザーの基準化 = あり

因子パターン

反復回数 = 7
 収束基準 = 0.0002

項目	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	Factor5	Factor6	共通性
a-6 GJS2: おおむね私は仕事を楽しんでいる。	.807	-.137	.073	.048	.018	-.115	.625
a-9 GCS1: 結局のところ、医師としての自分のキャリアには満足している。	.790	-.077	-.046	-.083	-.095	.136	.568
a-1 GJS1: 今の臨床の仕事は個人的にやりがいがあると感じている。	.761	.004	-.150	-.092	.056	.057	.548
a-13 GJS3: おおむね私は現在の仕事の状況に満足している。	.739	.030	.144	.028	-.006	.038	.675
GJS5逆	.628	.174	-.003	-.026	.116	-.024	.528
a-10 RWMD4: 同僚の医師たちは診療面での私の考えを評価してくれている。	.560	.002	-.153	.294	.030	-.054	.560
GJS4逆	.497	.160	.325	-.036	-.066	-.094	.478
a-19 GCS2: 私の医師としてのキャリアはおおむね期待したとおりだった。	.413	-.012	.029	.104	-.081	.311	.392
PAY3逆	-.105	1.037	-.084	-.010	.026	-.048	.941
a-22 PAY2: 私の収入全体の額は、仕事量と釣り合っている。	-.017	.663	.136	-.006	-.103	.175	.593
PAY1逆	.073	.614	.014	.061	.046	-.065	.416
BDN2逆	-.130	-.038	.889	.083	.007	.042	.687
BDN1逆	-.014	-.040	.827	-.050	.066	.040	.703
BDN4逆	.160	.154	.516	-.054	-.016	-.117	.444
a-15 RWMD1: 同僚の医師たちは私にとって大切な支えとなっている。	-.050	.007	.088	.864	.047	.044	.703
a-24 RWMD2: 私は同僚の医師達とうまくやっている。	-.071	.019	.011	.720	.020	-.035	.466
a-4 RWMD3: 同僚の医師たちは私の職業意識を良い意味で刺激してくれる。	.227	.013	-.114	.586	-.060	-.018	.540
RWS1逆	.077	-.048	.024	-.070	.928	-.126	.833
a-17 RWS2: コメディカルスタッフの職務能力は満足のいくものである。	-.117	-.022	.078	.061	.629	.167	.466
a-28 RWS3: コメディカルスタッフは私にとって大切な支えとなっている。	.041	.079	-.052	.074	.623	.093	.492
a-18 COMM1: 私は自分が診療している地域に根をおろしていると感じる。	.109	.053	-.068	-.114	.119	.721	.647
a-7 COMM2: 私と私の家族は自分が働いている地域と強い絆で結ばれている。	-.073	.039	.032	.048	-.010	.664	.424
a-12 COMM3: 私は自分の患者と強い絆で結ばれている。	.188	-.134	.035	.025	.002	.415	.263

因子寄与 5.167 3.047 3.046 3.036 2.744 2.409

適合度

乖離度 = 0.980 CFI = .948
 χ^2 値 = 259.241 RMSEA = .063
 DF = 130 AIC = 517.493
 p = .000 BIC = 963.690

信頼性係数 ※ α 係数と ω 係数は太字の項目から計算(負荷量が負のものは逆転)

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	Factor5	Factor6
α 係数	.873	.813	.796	.777	.790	.672
ω 係数	.893	.839	.819	.796	.802	.707
因子得点	.899	.936	.855	.832	.863	.736

逆転しない場合の信頼性係数

α 係数	.873	.813	.796	.777	.790	.672
ω 係数	.893	.839	.819	.796	.802	.707

因子間相関

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	Factor5	Factor6
Factor1	1.000	.280	.232	.496	.375	.384
Factor2	.280	1.000	.533	-.086	.147	.166
Factor3	.232	.533	1.000	-.252	.231	.083
Factor4	.496	-.086	-.252	1.000	.182	.133
Factor5	.375	.147	.231	.182	1.000	.315
Factor6	.384	.166	.083	.133	.315	1.000

因子構造(因子との相関係数)

項目	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	Factor5	Factor6
a-6	.772	.108	.170	.429	.289	.190
a-9	.733	.136	.107	.327	.207	.381
a-1	.725	.164	.070	.340	.309	.343
a-13	.808	.317	.326	.360	.326	.341
GJS5逆	.697	.364	.267	.288	.364	.279
a-10	.661	.047	-.094	.608	.241	.197
GJS4逆	.538	.450	.512	.089	.182	.124
a-19	.557	.150	.099	.329	.195	.458
PAY3逆	.152	.959	.448	-.132	.103	.083
a-22	.225	.745	.477	-.102	.073	.256
PAY1逆	.271	.632	.347	.041	.158	.089
BDN2逆	.125	.399	.822	-.195	.186	.073
BDN1逆	.182	.417	.833	-.244	.249	.111
BDN4逆	.246	.457	.636	-.136	.139	.001
a-15	.435	-.021	-.123	.831	.220	.163
a-24	.288	-.060	-.175	.679	.118	.043
a-4	.466	-.046	-.217	.713	.102	.121
RWS1逆	.334	.109	.238	.118	.903	.180
a-17	.225	.102	.183	.122	.664	.331
a-28	.357	.164	.133	.226	.681	.324
a-18	.373	.194	.102	.070	.358	.788
a-7	.221	.141	.077	.087	.194	.648
a-12	.331	.004	.036	.177	.196	.472

分析コード: _____ 0.7秒

全体満足・全体キャリア満足因子分析

サンプル = 283 変数 = 7 因子 = 1

抽出方法 = 最尤法
 回転方法 = 回転なし

因子パターン

反復回数 = 6
 収束基準 = 0

項目	Factor1	共通性
a-13 GJS3: おおむね私は現在の仕事の状況に満足している。	.830	.689
a-6 GJS2: おおむね私は仕事を楽している。	.756	.571
a-1 GJS1: 今の臨床の仕事は個人的にやりがいがあると感じている。	.711	.506
a-9 GCS1: 結局のところ、医師としての自分のキャリアには満足している。	.708	.501
GJS5逆	.689	.475
a-19 GCS2: 私の医師としてのキャリアはおおむね期待したとおりだった。	.567	.322
GJS4逆	.544	.296

因子寄与 3.361

適合度 乖離度 = 0.297 CFI = .915
 χ^2 値 = 82.539 RMSEA = .133
 DF = 14 AIC = 97.676
 p = .000 BIC = 123.194

信頼性係数 ※ α 係数と ω 係数は太字の項目から計算(負荷量が負のものは逆転)

	Factor1
α 係数	.860
ω 係数	.864
因子得点	.881

逆転しない場合の信頼性係数

α 係数	.860
ω 係数	.864

分析コード: _____ 0.16秒

働き方改革因子分析

サンプル = 269 変数 = 20 因子 = 4

抽出方法 = 最尤法
 回転方法 = プロマックス回転(Power = 4)
 カイザーの基準化 = あり

因子パターン 反復回数 = 10
 収束基準 = 0

項目	専門性向上支援ニーズ	院内外の関係性構築支援ニーズ	事務業務軽減支援ニーズ	労働時間削減支援ニーズ	共通性	
	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4		
b-14 最新の医療機器の導入や治療の獲得など医療レベルの向上である。	.843		-.040	-.048	-.118	.641
b-17 専門医などの資格取得のサポートシステムである。	.660		.098	.005	.039	.535
b-13 成果主義に基づく経済的インセンティブの付与である。	.620		-.221	.052	.145	.327
b-15 職務内容を自律的に決定できることである。	.534		.183	-.016	.103	.450
b-18 医師のブランド化を戦略的にサポートすることである。	.530		.242	-.064	-.058	.463
b-12 学会や研究会への参加を奨励、サポートすることである。	.486		.033	.239	-.011	.420
b-20 同僚と良好な関係を構築できる環境の提供である。	-.067	.811		-.023	.013	.584
b-25 産業界を含めた職務に関する相談窓口の活用である。	-.019	.734		-.181	.016	.464
b-24 かかりつけ医や他医療機関など地域における連携の強化である。	-.144	.606		.247	-.081	.400
b-21 留学支援制度やキャリアサポートシステムを構築することである。	.214	.562		.009	-.038	.514
b-6 患者との良好な関係を構築できるシステム形成である。	.124	.495		.021	.018	.348
b-19 医療の不確実性を患者に認識してもらう啓発活動である。	-.021	.495		.079	.104	.285
b-11 書類作成業務の縮小である。	.029	-.096	.847		-.007	.685
b-9 医師事務作業補助者の活用による医師の生産性の向上である。	-.033	-.025	.802		.004	.611
b-10 電子カルテやIoTなどの情報技術(ICT)の活用である。	.073	.071	.577		-.053	.391
b-23 他職種へのタスクシフティング(業務移管)である。	-.015	.252	.434		.075	.351
b-1 労働時間の短縮である。	-.087	.064	-.041	.827		.654
b-4 宿日直業務(時間外業務)を減少させることである。	.018	-.035	-.020	.674		.444
b-3 家族と過ごす時間の確保である。	.064	-.061	.147	.566		.424
b-16 労働時間をフレックスタイム制やシフト制にすることである。	.098	.070	-.066	.438		.194
因子寄与	4.172	4.066	3.389	2.173		

適合度 乖離度 = 0.885 CFI = .933
 χ^2 値 = 228.209 RMSEA = .062
 DF = 116 AIC = 385.207
 p = .000 BIC = 651.216

信頼性係数 ※ α 係数と ω 係数は太字の項目から計算(負荷量が負のものは逆転)

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	
α 係数		.814	.794	.783	.712
ω 係数		.830	.805	.795	.738
因子得点		.857	.849	.848	.793

逆転しない場合の信頼性係数

α 係数	.814	.794	.783	.712
ω 係数	.830	.805	.795	.738

因子間相関

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4
Factor1	1.000	.620	.441	.082
Factor2	.620	1.000	.342	.031
Factor3	.441	.342	1.000	.440
Factor4	.082	.031	.440	1.000

因子構造(因子との相関係数)

項目	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4
b-14	.787	.462	.258	-.071
b-17	.726	.510	.346	.098
b-13	.518	.185	.313	.211
b-15	.649	.512	.327	.146
b-18	.647	.547	.228	-.035
b-12	.611	.416	.460	.136
b-20	.426	.762	.230	.022
b-25	.357	.660	.068	-.042
b-24	.334	.599	.355	.035
b-21	.563	.696	.278	.001
b-6	.442	.580	.253	.053
b-19	.329	.512	.285	.153
b-11	.343	.211	.824	.365
b-9	.305	.228	.780	.353
b-10	.368	.312	.611	.209
b-23	.338	.393	.546	.273
b-1	.003	.022	.306	.804
b-4	.043	-.009	.272	.665
b-3	.138	.047	.403	.634
b-16	.148	.122	.194	.419

分析コード: _____ 0.62秒

働き方改革因子要約統計量

サンプルサイズ

286

※分散は不偏分散, 標準偏差は不偏分散の平方根が出力されています。

変数名	有効N	平均値	中央値	標準偏差	分散	最小値	最大値
専門性向上支援コース	279	2.693	2.667	0.513	0.263	1.000	4.000
院内外の関係性構築支援コース	279	2.648	2.667	0.481	0.231	1.000	4.000
事務業務軽減コース	279	3.147	3.000	0.505	0.255	1.000	4.000
労働時間削減支援コース	281	2.990	3.000	0.522	0.272	1.500	4.000

分析コード: _____ 0.39秒

働き方改革（個別項目）と職務満足t検定-1

職務満足の平均値より高い医師：1, 低い医師：0

働き方改革の個別項目（25項目）で見ると、職務満足の低い医師の方が、「労働時間の短縮」、「報酬の増加」、「家族と過ごす時間の確保」、「宿日直業務(時間外業務)を減少させること」、「労働時間をフレックスタイム制やシフト制にすること」に対するニーズが高い。したがって、これらの5つの働き方に関する取り組みを改善すると、医師の職務満足が高まる可能性がある。

対応のない平均値の差の検定 (対応のないt検定)

従属変数 = 労働時間の短縮である。(b-1)

分析コード: 0.47秒

水準ごとの平均値:

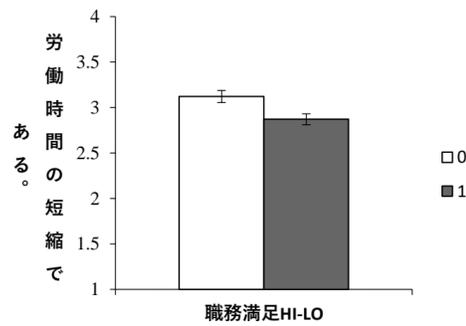
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	3.121	0.762	0.066	2.991	3.252	132
1	2.871	0.724	0.060	2.753	2.988	147

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.065

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	t値	df	p値
Welch検定	0.250	0.089	.075	.426	2.806	270.182	.005
t検定	0.250	0.089	.075	.426	2.814	277	.005

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	.167	.050	.279
効果量 <i>d</i>	0.337	0.100	0.573
<i>P</i> rep	.976		

対応のない平均値の差の検定 (対応のないt検定)

従属変数 = 報酬の増加である。(b-2)

分析コード: 1.11秒

水準ごとの平均値:

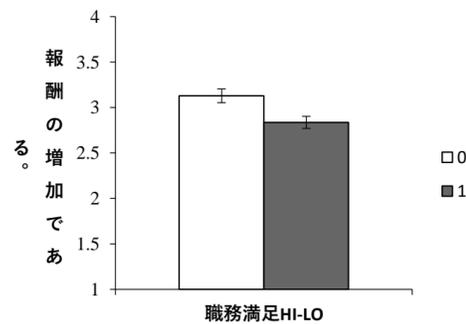
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	3.129	0.868	0.076	2.980	3.278	132
1	2.837	0.803	0.066	2.706	2.967	147

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.073

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	t値	df	p値
Welch検定	0.292	0.100	.095	.489	2.906	267.719	.004
t検定	0.292	0.100	.095	.489	2.919	277	.004

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	.173	.056	.284
効果量 <i>d</i>	0.349	0.113	0.585
<i>P</i> rep	.980		

対応のない平均値の差の検定 (対応のないt検定)

従属変数 = 家族と過ごす時間の確保である。(b-3)

分析コード: 1.77秒

水準ごとの平均値:

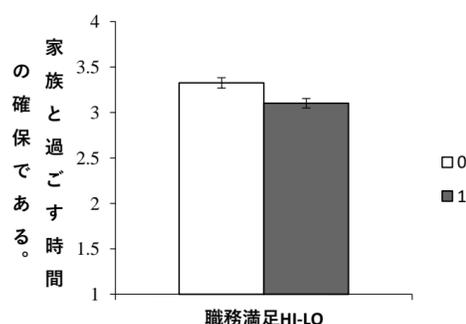
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	3.326	0.648	0.056	3.215	3.437	132
1	3.102	0.627	0.052	3.000	3.204	147

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.055

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	t値	df	p値
Welch検定	0.224	0.077	.073	.374	2.923	271.665	.004
t検定	0.224	0.076	.073	.374	2.928	277	.004

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

働き方改革（個別項目）と職務満足t検定-2

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	.173	.057	.285
効果量 <i>d</i>	0.350	0.114	0.586
<i>P</i> rep	.980		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 宿日直業務(時間外業務)を減少させることである。(b-4)

分析コード: _____ 2.45秒

水準ごとの平均値:

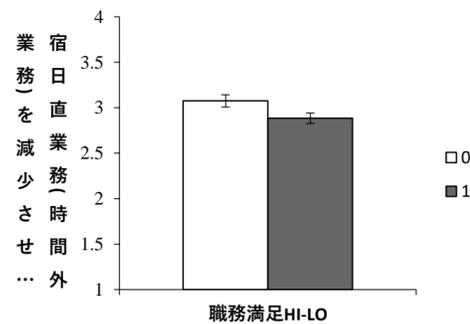
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	3.076	0.768	0.067	2.944	3.207	132
1	2.884	0.698	0.058	2.771	2.998	147

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.064

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	0.191	0.088	.019	.364	2.170	266.011	.031
<i>t</i> 検定	0.191	0.088	.019	.364	2.182	277	.030

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	.130	.013	.244
効果量 <i>d</i>	0.261	0.026	0.496
<i>P</i> rep	.938		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 複数主治医師の導入である。(b-5)

分析コード: _____ 3.42秒

水準ごとの平均値:

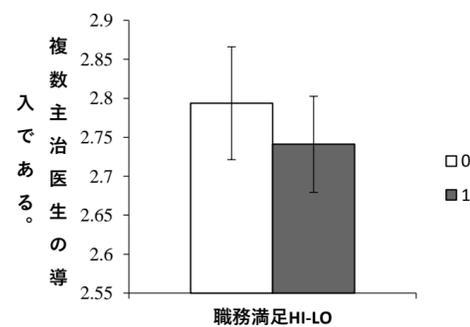
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.794	0.813	0.072	2.651	2.936	126
1	2.741	0.726	0.062	2.620	2.862	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.068

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	0.053	0.095	-.134	.239	0.554	251.786	.580
<i>t</i> 検定	0.053	0.095	-.133	.239	0.557	263	.578

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	.034	-.087	.154
効果量 <i>d</i>	0.068	-0.172	0.309
<i>P</i> rep	.653		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 患者との良好な関係を構築できるシステム形成である。(b-6)

分析コード: _____ 4.2秒

水準ごとの平均値:

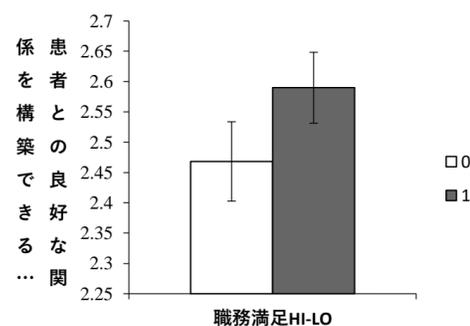
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.468	0.734	0.065	2.339	2.597	126
1	2.590	0.690	0.058	2.475	2.705	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.063

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	-0.122	0.088	-.294	.051	-1.387	256.366	.167
<i>t</i> 検定	-0.122	0.087	-.294	.051	-1.391	263	.165

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

働き方改革（個別項目）と職務満足t検定-3

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	-.085	-.204	.035
効果量 <i>d</i>	-0.171	-0.411	0.070
<i>P</i> rep	.837		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 自己研鑽に活用できる時間の確保である。(b-7)

分析コード: _____ 4.94秒

水準ごとの平均値:

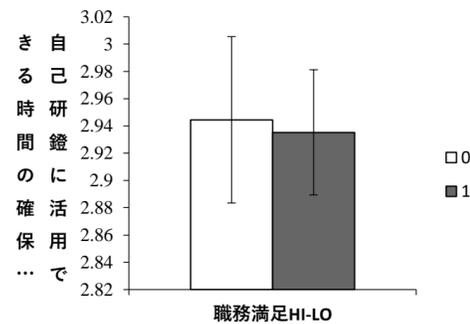
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.944	0.685	0.061	2.824	3.065	126
1	2.935	0.541	0.046	2.845	3.026	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.055

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	0.009	0.076	-.140	.158	0.120	237.622	.904
<i>t</i> 検定	0.009	0.075	-.139	.158	0.122	263	.903

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	.008	-.113	.128
効果量 <i>d</i>	0.015	-0.225	0.255
<i>P</i> rep	.534		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 女性医師の労働環境の整備である。(b-8)

分析コード: _____ 5.66秒

水準ごとの平均値:

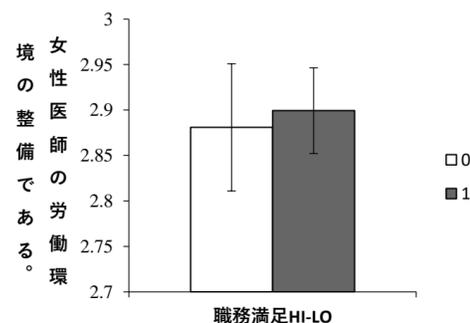
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.881	0.786	0.070	2.743	3.019	126
1	2.899	0.556	0.047	2.806	2.992	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.060

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	-0.018	0.084	-.182	.145	-0.217	222.520	.828
<i>t</i> 検定	-0.018	0.083	-.182	.145	-0.221	263	.825

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	-.014	-.134	.107
効果量 <i>d</i>	-0.027	-0.267	0.213
<i>P</i> rep	.562		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 医師事務作業補助者の活用による医師の生産性の向上である。(分析コード: _____)

6.35秒

水準ごとの平均値:

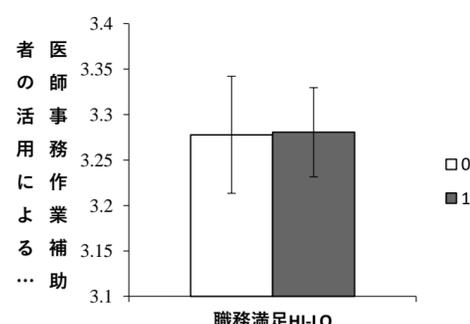
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	3.278	0.723	0.064	3.151	3.405	126
1	3.281	0.578	0.049	3.184	3.377	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.058

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	-0.003	0.081	-.160	.155	-0.035	239.097	.972
<i>t</i> 検定	-0.003	0.080	-.160	.155	-0.035	263	.972

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

働き方改革（個別項目）と職務満足t検定-4

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	-.002	-.123	.118
効果量 <i>d</i>	-0.004	-0.245	0.236
<i>P</i> rep	.510		

対応のない平均値の差の検定 (対応のないt検定)

従属変数 = 電子カルテやIoTなどの情報技術(ICT)の活用である。(b-10)

分析コード: _____

7.09秒

水準ごとの平均値:

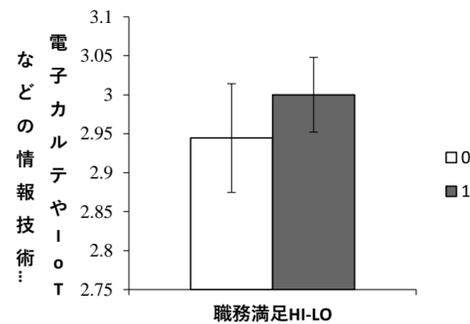
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.944	0.783	0.070	2.807	3.082	126
1	3.000	0.565	0.048	2.906	3.094	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.060

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	t値	df	p値
Welch検定	-0.056	0.085	-.220	.109	-0.657	225.307	.512
t検定	-0.056	0.083	-.220	.108	-0.667	263	.505

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	-.041	-.161	.080
効果量 <i>d</i>	-0.082	-0.322	0.159
<i>P</i> rep	.681		

対応のない平均値の差の検定 (対応のないt検定)

従属変数 = 書類作成業務の縮小である。(b-11)

分析コード: _____

7.8秒

水準ごとの平均値:

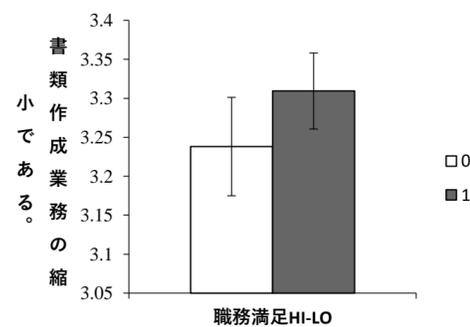
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	3.238	0.709	0.063	3.114	3.362	126
1	3.309	0.575	0.049	3.213	3.405	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.057

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	t値	df	p値
Welch検定	-0.071	0.080	-.227	.084	-0.893	240.992	.373
t検定	-0.071	0.079	-.227	.084	-0.902	263	.368

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	-.056	-.175	.065
効果量 <i>d</i>	-0.111	-0.351	0.130
<i>P</i> rep	.738		

対応のない平均値の差の検定 (対応のないt検定)

従属変数 = 学会や研究会への参加を奨励、サポートすることである。(b-12)

分析コード: _____

8.52秒

水準ごとの平均値:

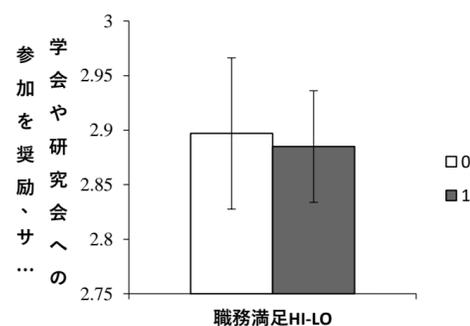
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.897	0.778	0.069	2.760	3.033	126
1	2.885	0.603	0.051	2.784	2.986	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.062

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	t値	df	p値
Welch検定	0.012	0.086	-.156	.180	0.139	235.040	.890
t検定	0.012	0.085	-.156	.179	0.140	263	.889

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

働き方改革（個別項目）と職務満足t検定-5

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	.009	-.112	.129
効果量 <i>d</i>	0.017	-0.223	0.258
<i>P</i> rep	.539		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 成果主義に基づく経済的インセンティブの付与である。(b-13)

分析コード: _____ 9.25秒

水準ごとの平均値:

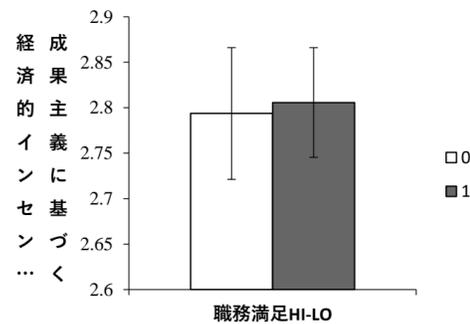
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.794	0.813	0.072	2.651	2.936	126
1	2.806	0.711	0.060	2.687	2.924	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.068

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	-0.012	0.094	-.197	.172	-0.128	249.680	.898
<i>t</i> 検定	-0.012	0.094	-.196	.172	-0.129	263	.897

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	-.008	-.128	.113
効果量 <i>d</i>	-0.016	-0.256	0.225
<i>P</i> rep	.536		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 最新の医療機器の導入や治験の獲得など医療レベルの向上であり分析コード: _____

9.96秒

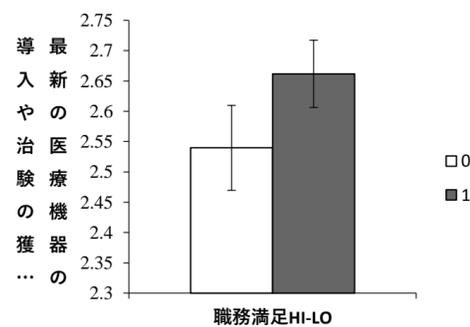
水準ごとの平均値:

水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.540	0.786	0.070	2.402	2.678	126
1	2.662	0.654	0.056	2.553	2.771	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.064

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	-0.122	0.089	-.297	.052	-1.367	244.082	.173
<i>t</i> 検定	-0.122	0.089	-.297	.052	-1.379	263	.169



※エラーバーは標準誤差

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 職務内容を自律的に決定できることである。(b-15)

分析コード: _____ 10.66秒

水準ごとの平均値:

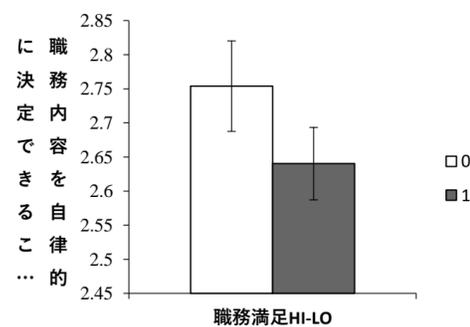
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.754	0.745	0.066	2.623	2.885	126
1	2.640	0.626	0.053	2.536	2.745	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.061

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	0.114	0.085	-.052	.280	1.338	245.156	.182
<i>t</i> 検定	0.114	0.084	-.052	.280	1.349	263	.178

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

働き方改革（個別項目）と職務満足t検定-6

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	.083	-.038	.201
効果量 <i>d</i>	0.165	-0.075	0.406
<i>P</i> rep	.830		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 労働時間をフレックスタイム制やシフト制にすることである。(b-16) 分析コード: _____ 11.36秒

水準ごとの平均値:

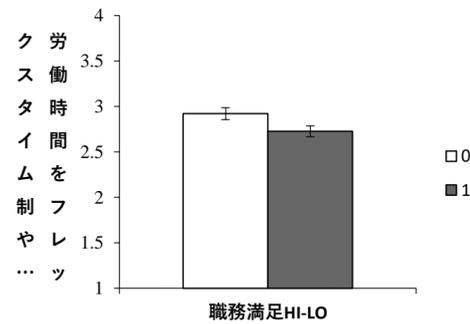
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.921	0.733	0.065	2.792	3.049	126
1	2.727	0.700	0.059	2.610	2.844	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.064

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	0.194	0.088	.021	.367	2.198	257.593	.029
<i>t</i> 検定	0.194	0.088	.021	.367	2.203	263	.028

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

職務満足の低い医師の方が、フレックスタイム制やシフト制など時間の柔軟性のニーズが高い。

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	.135	.014	.251
効果量 <i>d</i>	0.270	0.029	0.512
<i>P</i> rep	.940		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 専門医などの資格取得のサポートシステムである。(b-17) 分析コード: _____ 12.06秒

水準ごとの平均値:

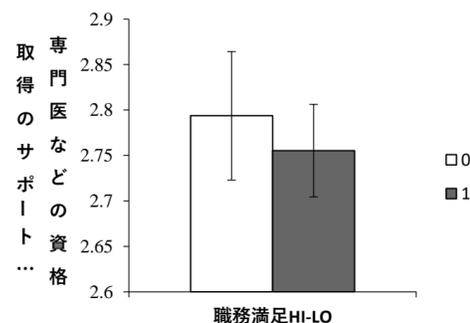
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.794	0.793	0.071	2.655	2.933	126
1	2.755	0.600	0.051	2.655	2.856	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.062

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	0.038	0.087	-.131	.208	0.439	231.823	.661
<i>t</i> 検定	0.038	0.086	-.131	.207	0.445	263	.657

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	.027	-.093	.147
効果量 <i>d</i>	0.055	-0.186	0.295
<i>P</i> rep	.623		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 医師のブランド化を戦略的にサポートすることである。(b-18) 分析コード: _____ 12.77秒

水準ごとの平均値:

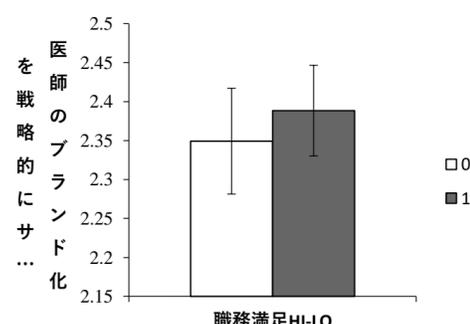
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.349	0.762	0.068	2.215	2.483	126
1	2.388	0.686	0.058	2.274	2.503	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.064

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	-0.039	0.089	-.215	.136	-0.439	252.650	.661
<i>t</i> 検定	-0.039	0.089	-.215	.136	-0.441	263	.659

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

働き方改革（個別項目）と職務満足t検定-7

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	-.027	-.147	.094
効果量 <i>d</i>	-0.054	-0.295	0.186
<i>P</i> rep	.622		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 医療の不確実性を患者に認識してもらう啓発活動である。(b-19) 分析コード: _____ 13.46秒

水準ごとの平均値:

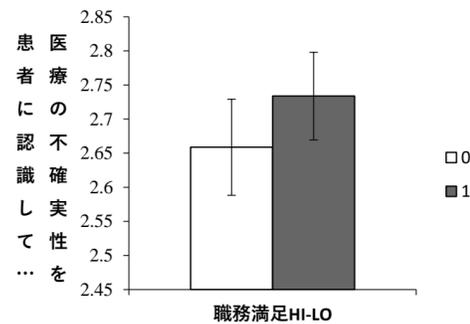
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.659	0.792	0.071	2.520	2.798	126
1	2.734	0.757	0.064	2.607	2.860	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.069

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	-0.075	0.095	-.263	.112	-0.787	257.754	.432
<i>t</i> 検定	-0.075	0.095	-.263	.112	-0.789	263	.431

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	-.049	-.168	.072
効果量 <i>d</i>	-0.097	-0.337	0.144
<i>P</i> rep	.711		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 同僚と良好な関係を構築できる環境の提供である。(b-20) 分析コード: _____ 14.18秒

水準ごとの平均値:

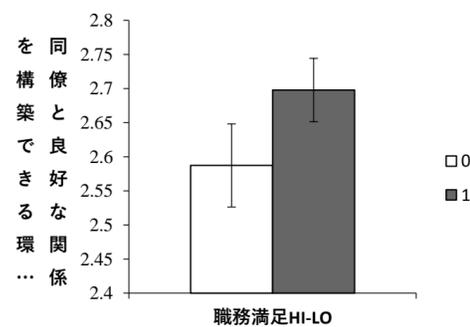
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.587	0.684	0.061	2.467	2.707	126
1	2.698	0.547	0.046	2.606	2.789	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.055

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	-0.111	0.077	-.260	.039	-1.443	239.107	.150
<i>t</i> 検定	-0.111	0.076	-.260	.039	-1.458	263	.146

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	-.090	-.208	.031
効果量 <i>d</i>	-0.179	-0.420	0.062
<i>P</i> rep	.848		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 留学支援制度やキャリアサポートシステムを構築することである。(b- 分析コード: _____ 14.91秒

水準ごとの平均値:

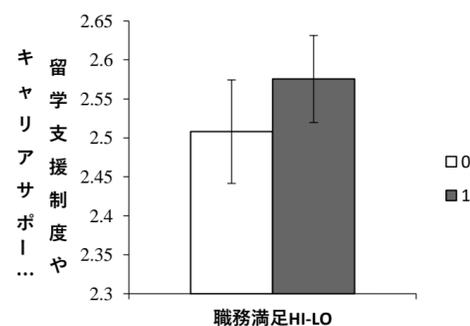
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.508	0.746	0.066	2.377	2.639	126
1	2.576	0.659	0.056	2.465	2.686	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.063

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	-0.068	0.087	-.238	.102	-0.779	250.819	.437
<i>t</i> 検定	-0.068	0.086	-.238	.102	-0.783	263	.434

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

働き方改革（個別項目）と職務満足t検定-8

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	-.048	-.168	.073
効果量 <i>d</i>	-0.096	-0.337	0.144
<i>P</i> rep	.710		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 勤務医師の健康状態(肉体、精神)に配慮することである。(b-22) 分析コード: _____ 15.64秒

水準ごとの平均値:

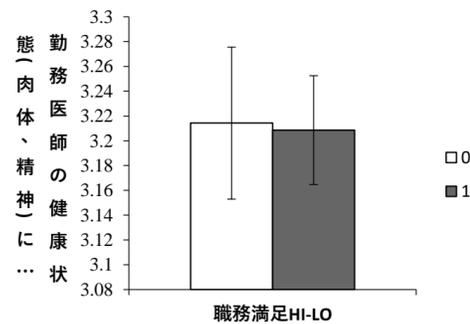
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	3.214	0.688	0.061	3.094	3.335	126
1	3.209	0.517	0.044	3.122	3.295	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.054

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	0.006	0.075	-.141	.152	0.075	230.980	.940
<i>t</i> 検定	0.006	0.074	-.141	.152	0.076	263	.939

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	.005	-.116	.125
効果量 <i>d</i>	0.009	-0.231	0.250
<i>P</i> rep	.521		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 他職種へのタスクシフティング(業務移管)である。(b-23) 分析コード: _____ 16.33秒

水準ごとの平均値:

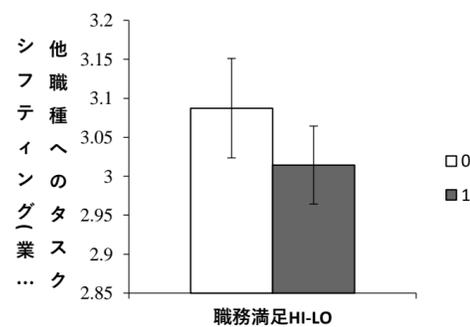
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	3.087	0.716	0.064	2.962	3.213	126
1	3.014	0.590	0.050	2.916	3.113	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.058

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	0.073	0.081	-.085	.231	0.900	242.840	.369
<i>t</i> 検定	0.073	0.080	-.085	.231	0.908	263	.365

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	.056	-.065	.175
効果量 <i>d</i>	0.111	-0.129	0.352
<i>P</i> rep	.739		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = かかりつけ医や他医療機関など地域における連携の強化である。(t分析コード: _____ 17.04秒

水準ごとの平均値:

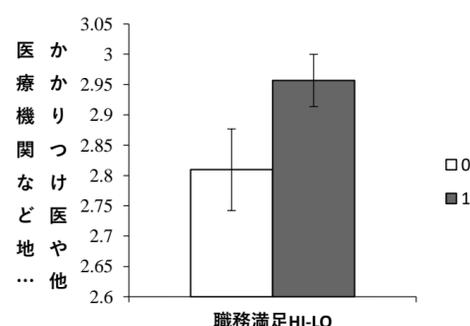
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.810	0.756	0.067	2.677	2.942	126
1	2.957	0.509	0.043	2.872	3.042	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.057

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	-0.147	0.080	-.302	.007	-1.842	215.815	.067
<i>t</i> 検定	-0.147	0.079	-.302	.007	-1.876	263	.062

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

働き方改革（個別項目）と職務満足t検定-9

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	-.115	-.232	.006
効果量 <i>d</i>	-0.230	-0.471	0.011
<i>P</i> rep	.907		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定) 従属変数 = 産業医を含めた職務に関する相談窓口の活用である。(b-25) 分析コード: _____ 17.75秒

水準ごとの平均値:

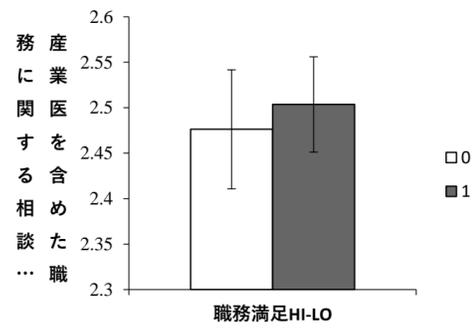
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.476	0.734	0.065	2.347	2.605	126
1	2.504	0.618	0.052	2.400	2.607	139

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.060

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	-0.027	0.084	-.191	.136	-0.327	245.432	.744
<i>t</i> 検定	-0.027	0.083	-.191	.136	-0.330	263	.742

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	-.020	-.140	.100
効果量 <i>d</i>	-0.040	-0.281	0.200
<i>P</i> rep	.592		

働き方改革（4因子）と職務満足t検定-1

職務満足の平均値より高い医師：1, 低い医師：0

働き方改革の4因子で見ると、職務満足の低い医師の方が、「労働時間削減支援ニーズ」が高い。したがって、労働時間に関する働き方に関する取り組みを改善すると、医師の職務満足が高まる可能性がある。

対応のない平均値の差の検定 (対応のないt検定)

従属変数 = 専門性向上支援ニーズ(専門性向上支援ニーズ)

分析コード: _____ 0.41秒

水準ごとの平均値:

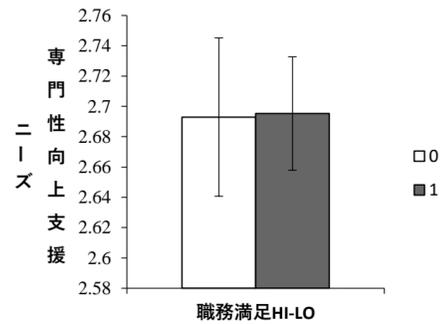
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.693	0.589	0.052	2.590	2.796	127
1	2.695	0.443	0.037	2.622	2.769	140

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.046

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	t値	df	p値
Welch検定	-0.002	0.064	-.127	.123	-0.036	232.925	.971
t検定	-0.002	0.063	-.127	.123	-0.037	265	.971

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	-.002	-.122	.118
効果量 <i>d</i>	-0.004	-0.244	0.235
<i>P</i> rep	.510		

対応のない平均値の差の検定 (対応のないt検定)

従属変数 = 院内外の関係性構築支援ニーズ(院内外の関係性構築支援)

分析コード: _____ 1.16秒

水準ごとの平均値:

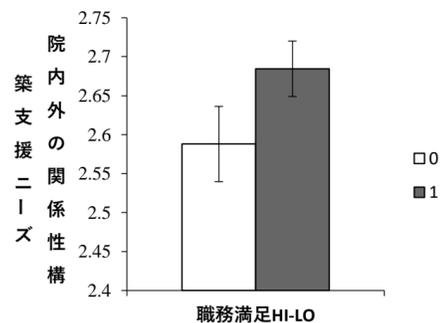
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	2.588	0.544	0.048	2.493	2.683	127
1	2.685	0.422	0.036	2.614	2.755	140

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.043

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	t値	df	p値
Welch検定	-0.097	0.060	-.213	.020	-1.610	236.977	.109
t検定	-0.097	0.059	-.213	.020	-1.630	265	.104

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	-.100	-.217	.021
効果量 <i>d</i>	-0.199	-0.439	0.041
<i>P</i> rep	.875		

対応のない平均値の差の検定 (対応のないt検定)

従属変数 = 事務業務軽減ニーズ(事務業務軽減ニーズ)

分析コード: _____ 1.87秒

水準ごとの平均値:

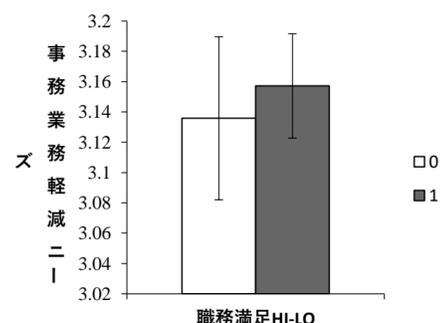
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	3.136	0.606	0.054	3.030	3.242	127
1	3.157	0.407	0.034	3.089	3.225	140

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.045

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	t値	df	p値
Welch検定	-0.021	0.064	-.145	.102	-0.334	217.184	.739
t検定	-0.021	0.063	-.145	.102	-0.340	265	.734

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

働き方改革（4因子）と職務満足t検定-2

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	-.021	-.141	.099
効果量 <i>d</i>	-0.042	-0.281	0.198
<i>P</i> rep	.595		

対応のない平均値の差の検定 (対応のない *t* 検定)

従属変数 = 労働時間削減支援ニーズ(労働時間削減支援ニーズ)

分析コード: _____ 2.57秒

水準ごとの平均値:

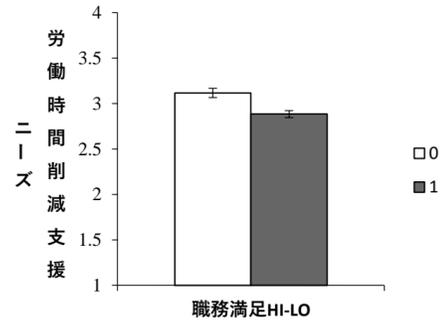
水準	平均値	標準偏差	標準誤差	95%下限	95%上限	人数
0	3.116	0.572	0.051	3.016	3.216	127
1	2.884	0.452	0.038	2.809	2.959	140

等分散を仮定する場合の標準誤差 = 0.045

差の検定

検定の種類	差	標準誤差	95%下限	95%上限	<i>t</i> 値	df	<i>p</i> 値
Welch検定	0.232	0.064	.108	.356	3.655	239.577	.000
<i>t</i> 検定	0.232	0.063	.109	.356	3.696	265	.000

※Welch検定は2群の等分散を仮定しない検定です。



※エラーバーは標準誤差

効果量

	効果量	95%下限	95%上限
相関係数 <i>r</i>	.221	.104	.333
効果量 <i>d</i>	0.452	0.209	0.694
<i>P</i> rep	.995		

職務満足要因と満足度の回帰分析

重回帰分析

サンプルサイズ = 258

分析コード:

0.44秒

Step1

全体的職務満足 <-

男性ダミー 39歳以下 40-49歳 50-59歳 勤続1-5年 勤続6-10年 c-4-2-1 負担の少なさ 公平な報酬 コメディカルとの良好な関係 同僚医師との良好な関係 地域との良好な関係 患者との良好な関係

モデル適合

	SS	df	MS	F値	p値
モデル	52.815	13	4.063	19.994	.000
誤差	49.579	244	0.203		
全体	102.394	257			

適合指標	R ²	Adjust R ²	F値	df	p値	AIC	BIC	CAIC
	.516	.490	19.994	13, 244	.000	336.629	389.924	338.613

回帰係数

目的変数 = 全体的職務満足(全体的職務満足)

変数名	係数	標準誤差	95%下限	95%上限	t値	df	p値
切片	0.016	0.293	-0.561	0.592	0.053	244	.958
男性ダミー	0.091	0.072	-0.050	0.232	1.269	244	.206
39歳以下	-0.174	0.150	-0.470	0.122	-1.157	244	.248
40-49歳	-0.097	0.147	-0.386	0.192	-0.659	244	.510
50-59歳	-0.099	0.151	-0.396	0.199	-0.653	244	.515
勤続1-5年	-0.145	0.095	-0.332	0.042	-1.528	244	.128
勤続6-10年	0.055	0.103	-0.148	0.257	0.532	244	.596
役職ダミー	0.033	0.080	-0.125	0.192	0.417	244	.677
負担の少なさ	0.203	0.043	0.119	0.288	4.753	244	.000 **
公平な報酬	0.113	0.040	0.034	0.192	2.802	244	.005 **
コメディカルとの良好な関係	0.069	0.041	-0.012	0.151	1.678	244	.095 +
同僚医師との良好な関係	0.578	0.054	0.473	0.684	10.806	244	.000 **
地域との良好な関係	0.142	0.045	0.055	0.230	3.195	244	.002 **
患者との良好な関係	-0.021	0.046	-0.112	0.070	-0.450	244	.653

標準化係数

目的変数 = 全体的職務満足(全体的職務満足)

変数名	全体的職務満足	95%下限	95%上限	VIF
男性ダミー	.060	-0.033	0.154	1.145
39歳以下	-.138	-0.372	0.097	7.130
40-49歳	-.068	-0.270	0.134	5.302
50-59歳	-.056	-0.223	0.112	3.645
勤続1-5年	-.109	-0.250	0.032	2.566
勤続6-10年	.031	-0.083	0.145	1.686
役職ダミー	.020	-0.074	0.113	1.136
負担の少なさ	.265 **	0.155	0.375	1.568
公平な報酬	.147 **	0.044	0.250	1.387
コメディカルとの良好な関係	.083 +	-0.014	0.180	1.231
同僚医師との良好な関係	.528 **	0.432	0.624	1.204
地域との良好な関係	.164 **	0.063	0.265	1.322
患者との良好な関係	-.022	-0.119	0.075	1.213
R ²	.516 **			

** p < .01, * p < .05, + p < .10